埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第412集

川口市

宝蔵寺／新井宿上一斗蒔／東町裏

県道さいたま鳩ヶ谷線建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

２０１４

埼　玉　県
公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団

序

埼玉県では、県政運営の基本となる５か年計画「安心・成長・自立自尊の埼玉へ」を策定し、「快適で魅力あふれるまちづくり」を施策の一つとして、安心と活力の道づくりを推進しています。

その一環として、今回県道さいたま鳩ヶ谷線では、幅の広い歩道の整備や段差の解消など道路のバリアフリー化が実施されることになりました。

この事業地内には、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数存在しております。今回発掘調査を実施した宝蔵寺、新井宿上一斗蒔、東町裏の３遺跡もその中の一つです。発掘調査は県道さいたま鳩ヶ谷線の歩道整備に伴う事前調査であり、埼玉県さいたま県土整備事務所の委託を受け、当事業団が実施いたしました。

発掘調査の結果、中世の井戸跡、土壙、近世の土壙、地下式壙、溝跡が発見されました。現在の県道は、かつての日光御成道の上につくられていることから、これら遺構の多くは街道に関係するものと考えられます。

本書は、これらの発掘調査成果をまとめたものです。埋蔵文化財の保護並びに普及・啓発の資料として、また学術研究の基礎資料として、多くの方々に活用していただければ幸いです。

最後に、本書の刊行にあたり、発掘調査の諸調整に御尽力いただきました埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課をはじめ、埼玉県さいたま県土整備事務所、川口市教育委員会並びに地元関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

平成26年３月

公益財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

理　事　長　　中　村　英　樹

例　言

1．本書は川口市に所在する宝蔵寺遺跡第１～３次、新井宿上一斗蒔遺跡１・２次、東町裏遺跡２次調査の発掘調査報告書である。

2．遺跡の略号と代表地番、発掘調査届に対する指示通知は、以下のとおりである。

宝蔵寺遺跡第１次・新井宿上一斗蒔遺跡第１次（ＨＺＪ・ＫＭＩＴＴＭＫ）
川口市大字新井宿 339 番地他
平成 13 年６月６日付け教文第２－ 20・21 号

宝蔵寺遺跡第２次（ＨＺＪ２）
川口市大字西新井宿字南原 353 －３他
平成 14 年５月 14 日付け教文第２－ 13 号

宝蔵寺遺跡第３次・新井宿上一斗蒔遺跡第２次（ＨＺＪ３・ＫＭＩＴＴＭＫ２）
川口市西新井宿字竹下 351 他
平成 16 年５月 24 日付け教文第２－ 17 号

東町裏遺跡第２次（ＨＭＵＲ）
川口市大字石神字東町裏 1226 他
平成 18 年１月 30 日付け教生文第２－ 98 号

3．発掘調査は、県道さいたま鳩ヶ谷線建設事業に先立つ埋蔵文化財記録保存のための事前調査である。埼玉県教育局生涯学習部文化財保護課（平成 13 年度当時）が調整し、埼玉県県土整備部道路街路課の委託を受け、公益財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団が実施した。

4．各事業の委託事業名は、下記のとおりである。

発掘調査事業（平成 13・14・16・17 年度）
「県道大宮鳩ヶ谷線（川口市地内）埋蔵文化財発掘調査」（平成 13 年度、宝蔵寺第１次・新井宿上一斗蒔遺跡第１次）
「県道さいたま鳩ヶ谷線（川口市地内）埋蔵文化財発掘調査委託」（平成 14 年度、宝蔵寺第２次）
「県道さいたま鳩ヶ谷線（川口市地内）埋蔵文化財発掘調査委託」（平成 16 年度、宝蔵寺第３次・新井宿上一斗蒔遺跡第２次）
「一般県道さいたま鳩ヶ谷線（川口市地内）交通安全施設整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査委託」（平成 17 年度、東町裏第２次）

整理報告書作成事業（平成 25 年度）
「地方特定道路（改築）整備工事（埋蔵文化財発掘調査（整理）業務委託）」

5．発掘調査・整理報告書作成事業はⅠ－３に示した組織により実施した。

発掘調査は、宝蔵寺遺跡第１次・新井宿上一斗蒔遺跡第１次を平成 13 年４月９日から平成 13 年８月 31 日まで木戸春夫、渡辺清志が、宝蔵寺遺跡第２次を平成 14 年５月１日から平成 14 年８月８日まで山本禎、伴瀬宗一が、宝蔵寺遺跡第３次・新井宿上一斗蒔遺跡第２次調査を平成 16 年４月 26 日から平成 16 年７月９日まで福田聖、栗岡潤が、東町裏遺跡第２次調査を平成 18 年１月 16 日から平成 18 年３月７日まで廷間孝志、宅間清公が担当した。

整理報告書作成事業は、平成 26 年１月４日から平成 26 年３月 31 日まで実施し、廷間孝志、劔持和夫、赤熊浩一が担当した。報告書は、平成 26 年３月 25 日に埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 412 集として印刷・刊行した。

6．発掘調査における基準点測量は（株）ムサシノ、(株) ＧＩＳ関東、(株) 東京航業研究所、(株) 未央測地設計に委託した。

7．発掘調査における写真撮影は木戸、渡辺、山本、伴瀬、福田、栗岡、廷間、宅間が行い、出土遺物の写真撮影は廷間が行った。

8．出土品の整理・図版作成は、廷間、劔持が行った。

9．本書の執筆は、Ⅰ－１を埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課が、Ⅱを劔持が、その他を廷間が行った。

10. 本書の編集は赤熊が行った。
11. 本書にかかる諸資料は平成26年4月以降、埼玉県教育委員会が管理・保管する。
12. 発掘調査や本書の作成にあたり、下記の方々、川口市教育委員会、関係機関の皆様からご教示・ご協力を賜った。記して感謝いたします（敬称略五十音順）。

春日　肇　金箱文夫　黒済和彦　小坂延仁
吉田健司

凡　例

1．遺跡全体におけるX・Yの数値は、日本測地系（旧測地系）、国家標準平面直角座標第Ⅸ系（原点北緯36°00′00″、東経139°50′00″）に基づく座標値を示す。また、各挿図に記した方位は全て座標北を指す。

宝蔵寺遺跡第3次、新井宿上一斗蒔遺跡第2次調査、東町裏遺跡第2次調査では、世界測地系を用いて調査を行った。日本測地系との座標の関係は全体図に示した。

各調査における日本測地系、世界測地系の座標値、経緯度は下のとおりである。

遺跡名	基準杭		日本系	世界系	経緯度
宝蔵寺1・2次 新井宿1次	C 2	X	-17630.000	-17274.8774	35° 50′ 09
		Y	-8490.000	-8783.0422	139° 44′ 09
宝蔵寺3次 新井宿2次	C 2	X	-17595.122	-17240.000	35° 50′ 28
		Y	-8506.957	-8800.000	139° 44′ 20
東町裏2次	K 14	X	-16807.6118	-16452.500	35° 50′ 54
		Y	-8071.9563	-865.000	139° 44′ 38
宝蔵寺2次	B 2	X	-17510.000	-17154.8784	35° 50′ 43
		Y	-8520.000	-8813.0422	139° 44′ 08

2．調査に際して使用したグリッドは、国家標準平面直角座標に基づく10×10ｍの範囲を基本（1グリッド）とし、調査区全体をカバーする方眼を設定した。

3．グリッドの名称は、北西隅を基点に、北から南に1～10、西から東にA～Jとし、表記は両者を組み合わせて、B－5グリッドとした。ただし、宝蔵寺遺跡第2次調査では、南北方向をアルファベット、東西方向を数字とした。

4．本書の本文・挿図・表・写真図版に記した遺構の略号は溝跡をSD、土壙をSK、井戸跡をSE、ピット・柱穴をPとした。

5．本書における挿図は、一部の例外を除き以下の縮尺を原則とした。

全測図　1/300　遺構図　1/60・1/30
遺物実測図・拓影図・合成図　1/4・1/3・1/2

6．遺構断面図に表記した水準数値は、全て海抜標高（単位ｍ）を表す。

8．遺物観察表の表記方法は以下のとおりである。

・器種は陶器、磁器、中世土器、瓦質土器、かわらけと表記した。
・遺物計測値は土器を㎝、石製品をｍｍ、重さをｇ単位とした。
・土器計測値の（　）は復元推定値、［　］は残存長を示す。
・胎土は特徴的な鉱物等を記号で示した。
　A：雲母　B：片岩　C：角閃石　D：長石
　E：石英　F：軽石　G：砂粒子
　H：赤色粒子　I：白色粒子　J：針状物質
　K：黒色粒子　L：その他　M：チャート
・焼成は良好・普通・不良の3段階に分けて示した。
・残存率は図示した器形に対する大まかな遺存程度を％で示した。
・備考には出土位置、注記No.、煤の付着、生産窯、年代等を記した。

11．本書に掲載した地形図類は国土地理院発行の1/25000地形図、川口市発行の1/2500都市計画図を編集のうえ、使用した。

12．文中の引用文献等は、（著者 発行年）の順で表記し、巻末に掲載した。

13．写真図版における遺跡名は、宝蔵寺遺跡を宝、新井宿一斗蒔遺跡を新、東町裏遺跡を東とし、調査次数を付した。

目　次

序
例言
凡例
目次

Ⅰ　発掘調査の概要……1
　1．発掘調査に至る経過 …… 1
　2．発掘調査・報告書作成の経過……2
　3．発掘調査・報告書作成の組織……3
Ⅱ　遺跡の立地と環境……4
　1．地理的環境 …… 4
　2．歴史的環境 …… 5
Ⅲ　遺跡の概要 …… 7
Ⅳ　宝蔵寺遺跡の遺構と遺物 …… 12
　1．第1次調査の遺構と遺物 …… 12
　（1）土壙……12
　2．第2次調査の遺構と遺物 …… 14
　（1）土壙……14
　（2）地下式壙……20
　（3）溝跡……21
　（4）ピット……23
　（5）グリッド出土の遺物 ……24
　3．第3次調査の遺構と遺物 ……24
　（1）土壙……24
　（2）井戸跡……26
　（3）溝跡……26
　（4）ピット……28
　（5）グリッド出土の遺物 ……28
　4．宝蔵寺遺跡出土の石製品 …… 29
　5．宝蔵寺遺跡出土の鉄製品 …… 30
　6．宝蔵寺遺跡出土の銭貨 …… 31
Ⅴ　新井宿上一斗蒔遺跡の遺構と遺物 ……32
　1．第1次調査の遺構と遺物 …… 32
　（1）土壙……32
　（2）地下式壙……32
　（3）溝跡……33
　（4）ピット……35
　（5）グリッド出土の遺物 ……35
　2．第2次調査の遺構と遺物 …… 35
　（1）土壙……35
　（2）溝跡……37
　（3）性格不明遺構……39
　（4）ピット……40
　3．新井宿上一斗蒔遺跡出土の石製品 …… 41
　4．新井宿上一斗蒔遺跡出土の鉄製品 …… 41
　5．新井宿上一斗蒔遺跡出土の銭貨 …… 42
Ⅵ　東町裏遺跡の遺構と遺物 ……42
　1．第2次調査の遺構と遺物 …… 42
　（1）土壙……42
　（2）地下式壙……44
　（3）溝跡……47
　（4）ピット……49
　（5）グリッド出土の遺物 ……49
Ⅶ　調査のまとめ ……50

写真図版

挿図目次

第１図　埼玉県の地形……4
第２図　周辺の遺跡……6
第３図　基本土層……8
第４図　宝蔵寺・新井宿上一斗蒔遺跡
　　調査地点位置図……9
第５図　宝蔵寺・新井宿上一斗蒔遺跡全体図…10
第６図　東町裏遺跡調査地点位置図 …… 11
第７図　東町裏遺跡全体図…… 11

宝蔵寺遺跡　１次

第８図　土壙出土遺物 ……13
第９図　土壙……14

宝蔵寺遺跡　２次

第10図　土壙（１） ……16
第11図　土壙（２） ……17
第12図　土壙（３） ……18
第13図　土壙出土遺物 ……18
第14図　土壙（４） ……19
第15図　第１号地下式壙 ……20
第16図　第１号地下式壙出土遺物 ……21
第17図　第１・２号溝跡 ……22
第18図　第１・２号溝跡出土遺物 ……23
第19図　グリッド出土遺物 ……24

宝蔵寺遺跡　３次

第20図　土壙出土遺物 ……25
第21図　土壙……25
第22図　第１号井戸跡出土遺物 ……26
第23図　第１号井戸跡……26
第24図　溝跡……27
第25図　第１号溝跡出土遺物 ……28
第26図　グリッド出土遺物 ……28

宝蔵寺遺跡　石製品・鉄製品・銭貨

第27図　石製品 ……29
第28図　鉄製品 ……30
第29図　銭貨……31

新井宿上一斗蒔遺跡　１次

第30図　第２号土壙 ……32
第31図　第１号地下式壙 ……32
第32図　第１号溝跡 ……33
第33図　第１号溝跡出土遺物 ……34
第34図　グリッド出土遺物 ……35

新井宿上一斗蒔遺跡　２次

第35図　土壙……36
第36図　第１・３・４号溝跡 ……37
第37図　溝跡出土遺物 ……38
第38図　第２・５・６号溝跡 ……39
第39図　第１号不明遺構 ……39
第40図　第１号不明遺構出土遺物 ……40

新井宿上一斗蒔遺跡　石製品・鉄製品・銭貨

第41図　石製品……41
第42図　鉄製品……41
第43図　銭貨……42

東町裏遺跡　２次

第44図　土壙……43
第45図　第１号土壙出土遺物……43
第46図　地下式壙（１） ……45
第47図　地下式壙（２） ……46
第48図　地下式壙出土遺物 ……47
第49図　溝跡……48
第50図　溝跡出土遺物 ……49
第51図　グリッド出土遺物 ……49

表目次

第１表　周辺の主要遺跡……7
宝蔵寺遺跡　１次
第２表　土壙一覧表……12
第３表　土壙出土遺物観察表……13
宝蔵寺遺跡　２次
第４表　土壙一覧表……15
第５表　土壙出土遺物観察表……20
第６表　第１号地下式壙出土遺物観察表……21
第７表　溝跡一覧表……21
第８表　第１・２号溝跡出土遺物観察表……23
第９表　ピット一覧表……24
第10表　グリッド出土遺物観察表……24
宝蔵寺遺跡　３次
第11表　土壙一覧表……24
第12表　第１号井戸跡出土遺物観察表……26
第13表　溝跡一覧表……27
第14表　第１号溝跡出土遺物観察表……27
第15表　ピット一覧表……28
第16表　グリッド出土遺物観察表……29
宝蔵寺遺跡　石製品・鉄製品・銭貨
第17表　石製品観察表……30
第18表　鉄製品観察表……30
第19表　銭貨観察表……30
新井宿上一斗蒔遺跡　１次
第20表　第１号溝跡出土遺物観察表……34
第21表　ピット一覧表……35
第22表　グリッド出土遺物観察表……35
新井宿上一斗蒔遺跡　２次
第23表　土壙一覧表……35
第24表　溝跡一覧表……38
第25表　溝跡出土遺物観察表……38
第26表　第１号不明遺構出土遺物観察表……40
第27表　ピット一覧表……40
新井宿上一斗遺跡　石製品・鉄製品・銭貨
第28表　石製品観察表……41
第29表　鉄製品観察表……41
第30表　銭貨観察表……42
東町裏遺跡　２次
第31表　土壙一覧表……43
第32表　第１号土壙出土遺物観察表……44
第33表　地下式壙一覧表……44
第34表　地下式壙出土遺物観察表……46
第35表　溝跡一覧表……47
第36表　溝跡出土遺物観察表……49
第37表　グリッド出土遺物観察表……49

写真図版目次

図版1　1　宝蔵寺遺跡1次全景（北から）
　　2　宝蔵寺遺跡1次第1～4号土壙（西から）
　　3　宝蔵寺遺跡1次第5号土壙（西から）
　　4　宝蔵寺遺跡1次第6・7号土壙（西から）
　　5　宝蔵寺遺跡2次C区（南から）
　　6　宝蔵寺遺跡2次B区（北から）
図版2　1　宝蔵寺遺跡2次A区（南から）
　　2　宝蔵寺遺跡2次第1号土壙（南から）
　　3　宝蔵寺遺跡2次第2号土壙（北から）
　　4　宝蔵寺遺跡2次第3号土壙（北から）
　　5　宝蔵寺遺跡2次第4号土壙（南から）
　　6　宝蔵寺遺跡2次第7号土壙（西から）
　　7　宝蔵寺遺跡2次第8～10号土壙（東から）
図版3　1　宝蔵寺遺跡2次第12号土壙（西から）
　　2　宝蔵寺遺跡2次第13号土壙（西から）
　　3　宝蔵寺遺跡2次第14号土壙（南西から）
　　4　宝蔵寺遺跡2次第15号土壙（東から）
　　5　宝蔵寺遺跡2次第16・17号土壙（北から）
　　6　宝蔵寺遺跡2次第18・19号土壙（東から）
　　7　宝蔵寺遺跡2次第20号土壙（西から）
　　8　宝蔵寺遺跡2次第21号土壙（西から）
図版4　1　宝蔵寺遺跡2次第23号土壙（東から）
　　2　宝蔵寺遺跡2次第24号土壙（東から）
　　3　宝蔵寺遺跡2次第25号土壙（西から）
　　4　宝蔵寺遺跡2次第27号土壙（西から）
　　5　宝蔵寺遺跡2次第28号土壙（西から）
　　6　宝蔵寺遺跡2次第29号土壙（西から）
　　7　宝蔵寺遺跡2次第30号土壙（西から）
　　8　宝蔵寺遺跡2次第31号土壙（東から）
図版5　1　宝蔵寺遺跡2次第32号土壙（南から）
　　2　宝蔵寺遺跡2次第33号土壙（西から）
　　3　宝蔵寺遺跡2次第13号土壙、第1号地下式壙（南から）
　　4　宝蔵寺遺跡2次第1号地下式壙（西から）
　　5　宝蔵寺遺跡3次全景（北から）
　　6　宝蔵寺遺跡3次第1号土壙、第1号井戸跡（北から）
　　7　宝蔵寺遺跡3次第3・4号土壙（西から）
図版6　1　宝蔵寺遺跡3次第5号土壙、第3号溝跡（西から）
　　2　宝蔵寺遺跡3次ピット5～9（南から）
　　3　宝蔵寺遺跡3次第7号土壙（北西から）
　　4　宝蔵寺遺跡3次第2号土壙（西から）
　　5　宝蔵寺遺跡3次第1号溝跡（北から）

6　宝蔵寺遺跡３次第２号溝跡（東から）
7　新井宿上一斗蒔遺跡１次B区
（南から）

図版7　1　新井宿上一斗蒔遺跡１次A区
（南から）
2　新井宿上一斗蒔遺跡１次C区
（南から）
3　新井宿上一斗蒔遺跡１次
第１号地下式壙（西から）
4　新井宿上一斗蒔遺跡２次A区
（南から）
5　新井宿上一斗蒔遺跡２次B区北側
（南から）
6　新井宿上一斗蒔遺跡２次B区南側・
C区（南から）

図版8　1　新井宿上一斗蒔遺跡２次第１号土壙
（南から）
2　新井宿上一斗蒔遺跡２次
第２号土壙、ピット４・５（東から）
3　新井宿上一斗蒔遺跡２次
第３・５号土壙（東から）
4　新井宿上一斗蒔遺跡２次
第４・６・８号土壙（東から）
5　新井宿上一斗蒔遺跡２次第７号土壙
（北から）
6　新井宿上一斗蒔遺跡２次
第１・３・４号溝跡（南から）
7　新井宿上一斗蒔遺跡２次第２号溝跡
（北から）
8　新井宿上一斗蒔遺跡２次第５号溝跡
（南から）

図版9　1　新井宿上一斗蒔遺跡２次第６号溝跡
（南から）
2　新井宿上一斗蒔遺跡２次
第６号溝跡硬化面（南から）
3　新井宿上一斗蒔遺跡２次
第１号不明遺構（北から）
4　東町裏遺跡２次北調査区南側
（北西から）
5　東町裏遺跡２次北調査区北側
（北西から）
6　東町裏遺跡２次南調査区南側
（南東から）
7　東町裏遺跡２次第１号土壙
（北東から）
8　東町裏遺跡２次第２号土壙
（南西から）

図版10　1　東町裏遺跡２次第３・４号土壙
（南西から）
2　東町裏遺跡２次第５号土壙、
第３号溝跡（南東から）
3　東町裏遺跡２次第１号地下式壙
（南西から）
4　東町裏遺跡２次第２号地下式壙
（南西から）
5　東町裏遺跡２次第３号地下式壙
（北東から）
6　東町裏遺跡２次第４号地下式壙
（南西から）
7　東町裏遺跡２次第５・６号地下式壙
（南西から）
8　東町裏遺跡２次第１・２号溝跡
（北西から）

図版11　1　宝蔵寺遺跡１次第５号土壙
（第８図４）
2　宝蔵寺遺跡１次第５号土壙
（第８図６）
3　宝蔵寺遺跡２次第１号溝跡
（第18図１）
4　宝蔵寺遺跡２次第１号溝跡
（第18図２）
5　宝蔵寺遺跡２次グリッド
（第19図３）

6　宝蔵寺遺跡２次グリッド
（第19図２）
7　宝蔵寺遺跡３次グリッド
（第26図１）
8　宝蔵寺遺跡３次グリッド
（第26図２）
9　宝蔵寺遺跡３次グリッド
（第26図４）
10　新井宿上一斗蒔遺跡１次
第１号溝跡（第33図１）
11　新井宿上一斗蒔遺跡１次
第１号溝跡（第33図４）
12　新井宿上一斗蒔遺跡１次
第１号溝跡（第33図６）
13　新井宿上一斗蒔遺跡１次
第１号溝跡（第33図９）
14　東町裏遺跡２次第１号土壙
（第45図１）
15　東町裏遺跡２次第１号地下式壙
（第48図１）
16　東町裏遺跡２次第２号地下式壙
（第48図２）
17　東町裏遺跡２次第１号溝跡
（第50図３）
18　東町裏遺跡２次グリッド
（第51図１）

図版12　1　宝蔵寺遺跡３次グリッド
（第26図５）
2　新井宿上一斗蒔遺跡２次
第１号不明遺構（第40図２）
3　宝蔵寺遺跡１次第５号土壙
（第８図９）
4　宝蔵寺遺跡１次第５号土壙
（第８図）、
宝蔵寺遺跡２次土壙（第13図）・
第１号地下式壙（第16図）
5　宝蔵寺遺跡２次溝跡（第18図）・
グリッド（第19図）、
宝蔵寺遺跡３次井戸跡（第22図）・
溝跡（第25図）
6　新井宿上一斗蒔遺跡１次
第１号溝跡（第33図）
7　新井宿上一斗蒔遺跡２次溝跡
（第37図）・
第１号不明遺構（第40図）・
グリッド（第41図）
8　東町裏遺跡２次地下式壙（第48図）
9　宝蔵寺遺跡１次第６号土壙
（第８図11）
10　宝蔵寺遺跡２次第21号土壙
（第13図７）
11　宝蔵寺遺跡２次第１号土壙
（第27図３）
12　宝蔵寺遺跡３次第１号溝跡
（第29図19）
13　新井宿上一斗蒔遺跡２次
第１号不明遺構（第43図３）
14　宝蔵寺遺跡２次第29号土壙
（第27図４）
15　宝蔵寺遺跡２次第１号地下式壙
（第27図５）
16　宝蔵寺遺跡２次第１号地下式壙
（第27図６）
17　新１・２次鉄製品（第42図）
18　東町裏遺跡２次グリッド
（第51図３）

Ⅰ　発掘調査の概要

1．発掘調査に至る経過

埼玉県では、平成24年度から平成28年度の新5か年計画『埼玉県5か年計画―安心・成長・自立自尊の埼玉へ―』において「埼玉の成長を支える社会基盤を作る」という基本目標を掲げ、その一環として地域の生活を支える身近な道路の整備を進めている。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課では、このような施策の推進に伴う文化財の保護について、従前より関係部局との事前協議を重ね、調整を図ってきたところである。

県道さいたま鳩ヶ谷線改修事業のうち、本書で報告される箇所にかかる埋蔵文化財の所在及び取扱いについては、平成12年6月5日付け道整第108号、及び平成16年11月22日付けさい整第1390号で、道路建設課長（当時）、さいたま県土整備事務所長より文化財保護課長（当時）あて照会があった。

文化財保護課では確認調査を実施し、その結果をもとに以下の埋蔵文化財包蔵地について発掘調査が必要である旨を回答した。

・宝蔵寺遺跡、新井宿上一斗蒔遺跡
　平成12年8月1日付け教文第507号
・東町裏遺跡
　平成17年1月11日付け教文第1458号
　平成17年3月7日付け教文第1726号

発掘調査については、実施機関である財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団（当時）と道路建設課、文化財保護課の三者により調査方法、期間、経費等の問題を中心に協議が行われた。その結果、平成13年4月9日から8月31日、平成14年5月1日から8月8日、平成16年4月26日から7月9日、平成18年1月16日から3月7日までの期間で、実施することになった。

文化財保護法第57条の3（当時）及び第94条の規定による埋蔵文化財発掘通知が埼玉県知事から提出され、同法第57条（当時）及び第92条の規定による発掘調査届が財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団理事長から提出され発掘調査が実施された。

発掘調査に係る通知は以下の通りである。

・宝蔵寺遺跡
平成13年6月6日付け　教文第2－20号
平成14年5月14日付け　教文第2－13号
平成16年5月24日付け　教文第2－17号
・新井宿上一斗蒔遺跡
平成13年6月6日付け　教文第2－21号
平成16年5月24日付け　教文第2－17号
・東町裏遺跡
平成18年1月30日付け　教生文第2－98号

（埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課）

2．発掘調査・報告書作成の経過

（1）発掘調査

宝蔵寺・新井宿上一斗蒔・東町裏遺跡の調査は県道さいたま鳩ヶ谷線の歩道整備工事に先立ち、平成13年度（宝蔵寺第1次、新井宿上一斗蒔第1次）、14年度（宝蔵寺第2次）、16年度（宝蔵寺第3次、新井宿上一斗蒔第2次）、17年度（東町裏第2次）の4回実施した。調査面積は平成13年度800㎡、14年度428㎡、16年度340㎡、17年度143㎡である。

平成13年度

調査遺跡：宝蔵寺遺跡第1次、新井宿上一斗蒔遺跡第1次
調査期間：平成13年4月9日から5月31日
発掘事務所の設置：4月当初
囲柵、重機による表土除去作業：4月上旬
補助員による遺構確認作業：4月中旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：4月中旬
精査、遺構測量、撮影：4月中旬～5月下旬
重機による埋戻し、囲柵撤去、撤収：5月末

平成14年度

調査遺跡：宝蔵寺遺跡第2次
調査期間：平成14年5月1日から8月8日
発掘事務所の設置：5月当初
囲柵、重機による表土除去作業：5月上旬
補助員による遺構確認作業：5月中旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：5月中旬
精査、遺構測量、撮影：5月中旬～6月下旬
重機による埋戻し、囲柵撤去、撤収：6月末

平成16年度

調査遺跡：宝蔵寺遺跡第3次、新井宿上一斗蒔遺跡第2次
調査期間：平成16年4月26日から7月9日
発掘事務所の設置：5月当初
囲柵、重機による表土除去作業：5月上旬
補助員による遺構確認作業：5月中旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：5月中旬
精査、遺構測量、撮影：5月中旬～6月下旬
重機による埋戻し、囲柵撤去、撤収：6月末

平成17年度

調査遺跡：東町裏遺跡第2次
調査期間：平成18年1月16日から3月7日
発掘事務所の設置：2月初旬
囲柵、重機による表土除去作業：1月下旬から2月上旬
補助員による遺構確認作業：2月上旬
基準点測量及びグリッド杭打設作業：2月上旬
精査、遺構測量、撮影：2月上旬～2月下旬
重機による埋戻し、囲柵撤去、撤収：2月末

（2）整理報告書作成

整理報告書の作成作業は平成26年1月4日から平成26年3月31日まで実施した。

作業は出土遺物の水洗・注記から開始し、直ちに接合復元に着手した。復元を終えた遺物は順次実測、トレース、採拓を経て遺構ごとに印刷用の挿図を作成した。2月上旬には図版用の遺物写真を撮影した。

同時に、発掘調査で記録した遺構の断面図や平面図等は照合し、修正を加えてスキャナーでコンピューターに取り込んだ。その後、画像編集ソフトを用いて遺構ごとにトレースし、土層説明等を組み込んで、印刷用の版下とした。

2月中旬までに原稿執筆を終え、報告書の編集を行った。入稿後、3回の校正を経て、平成26年3月25日に報告書（本書）を刊行した。

なお、図面や写真などの記録類や遺物は、3月に整理分類のうえ、埼玉県文化財収蔵施設の収蔵庫へ仮収納した。

3．発掘調査・報告書作成の組織

平成 13 年度（発掘調査）

理事長	中野健一	**調査部**	
常務理事兼管理部長	大舘健	調査部長	高橋一夫
管理部		調査部副部長	坂野和信
管理幹	持田紀男	専門調査員（調査第一担当）	村田健二
		統括調査員	木戸春夫
		主任調査員	渡辺清志

平成 14 年度（発掘調査）

理事長	桐川卓雄	**調査部**	
常務理事兼管理部長	大舘健	調査部長	高橋一夫
管理部		調査部副部長	坂野和信
管理幹	持田紀男	専門調査員（調査第一担当）	村田健二
		統括調査員	山本禎
		統括調査員	伴瀬宗一

平成 16 年度（発掘調査）

理事長	福田陽充	**調査部**	
常務理事兼管理部長	中村英樹	調査部長	宮崎朝雄
管理部		調査部副部長	坂野和信
管理部副部長	村田健二	主席調査員（調査第一担当）	昼間孝志
主席	田中由夫	主任調査員	福田聖
		主任調査員	栗岡潤

平成 17 年度（発掘調査）

理事長	福田陽充	**調査部**	
常務理事兼管理部長	保永清光	調査部長	今泉泰之
管理部		調査部副部長	坂野和信
管理部副部長	村田健二	主席調査員（調査第一担当）	昼間孝志
主席	高橋義和	調査員	宅間清公

平成 25 年度（報告書作成）

理事長	中村英樹	**調査部**	
常務理事兼総務部長	大嶋紳一郎	調査部長	昼間孝志
総務部		調査部副部長	飆持和夫
総務部副部長	富田和夫	調査監兼調査第二課長	赤熊浩一
総務課長	藤倉英明	主幹兼整理第一課長	黒坂禎二

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1．地理的環境

埼玉県は関東平野の中西部に位置する内陸県である。

地形的には秩父盆地とこれを取り巻く山地からなる西部地域、山地東麓の丘陵と台地からなる中部地域、低地と台地群からなる東部地域の三者に大別できる。

本書に報告する宝蔵寺遺跡、新井宿上一斗蒔遺跡、東町裏遺跡の所在する川口市は埼玉県の南東部にあって、上記の東部地域に含まれる。南は東京都北区、東は草加市・東京都足立区、北はさいたま市、西は戸田市・蕨市と境を接する。

東部地域は残丘状の洪積ローム台地である大宮台地と、その四周を取り囲む沖積低地からなっている。大宮台地については綾瀬川の東側にある岩槻台地、さらに元荒川を越えた東にある白岡台地や慈恩寺台地、北西部に点在する騎西台地群などを含める場合もあるが、一般的には荒川と綾瀬川に挟まれた台地を指す。大宮主台とも呼ばれ、鴻巣市箕田付近を重点にさいたま市・川口市まで約43㎞、最大幅はさいたま市（旧大宮市）付近で約10㎞の平坦な台地である。小河川による開析が顕著なため、全体は幅の狭い八手の葉状を呈している。最高点は北本市南西部で標高約30ｍ、南端部のさいたま市南部では標高約15ｍである。台地の南部や西部では低地と数ｍの比高差を有するが、東部ではその差が少なくなり、北部では境界が不明瞭となる。

大宮台地や他の台地群の周囲に広がる低地は、広義には北西の妻沼低地、北東の加須低地、東の中川低地、西から南の荒川低地に分けられる。

川口市の地形は北部と南部で大きく異なっている。南部は標高３ｍほどの荒川低地で、荒川の浸食・再堆積作用によって自然堤防や後背湿地、旧河道などからなる低湿地が形成されている。一方、

第１図　埼玉県の地形

北部は標高 20 m弱の大宮台地で、多くの谷に深く刻まれた樹枝状の地形が顕著である。ただし、細かく見ると北部でも東側には、やはり綾瀬川が形成した中川低地が広がっている。

北部の台地は大宮台地の南東端部に相当し、特に鳩ヶ谷支台と呼ばれている。宝蔵寺遺跡、新井宿上一斗蒔遺跡、東町裏遺跡は鳩ヶ谷支台のほぼ中央に位置している。鳩ヶ谷支台の幅はこの部分が最も広く、約 450 mである。発達した樹枝状の谷は、氷河時代に「わずかな水の流れによって長い時間をかけて下刻したもの」とされている（菊地 1981）。谷底は浅い低地となっており、かつては谷地（津）田などに利用されていた。畑地や雑木林が広がっていた台地頂部との比高差は、約 12 mである。

2．歴史的環境

弥生時代から古墳時代の遺跡は希薄ながら、樹枝状に開析された鳩ヶ谷支台上には数多くの遺跡が分布している。

旧石器時代の叉原遺跡（18）、縄文時代の赤山陣屋跡（7）・猿貝貝塚（11）・石神貝塚（16）・卜伝遺跡（17）、古代の赤井台（旧天神山）遺跡（62）、猿貝北遺跡（10）・安行慈林下村中遺跡（30）等々、重要な遺跡を挙げるに事欠かない。これら遺跡の分布状態や時代的な傾向、特徴については川口市教育委員会をはじめ、県教育委員会や当事業団刊行の発掘調査報告書において繰り返し詳述されている。このため、以下では宝蔵寺遺跡（1）、新井宿上一斗蒔遺跡（2）、東町裏遺跡（3）の中心をなす、近世の歴史的環境を瞥見しておくこととする。

天正十八年（1590）八月、徳川家康の関東入部とともに、川口市一帯はその支配下に入った。

江戸時代初期、市域を含む足立郡の幕府領は伊奈・熊沢両代官の支配であった。家康の入国以来、伊奈家は忠次が代官頭として活躍したが、後継の忠政が早逝したので弟の忠治が代官頭（関東郡代）職を継いだ。『新編武蔵風土記稿』に拠れば、忠治は襲職と同時に足立郡赤山領七千石を賜り、寛永六年（1629）頃に赤山に陣屋を構えたという。伊奈家の関東郡代職、知行地はその後も世襲されたが、寛政四年（1792）、第十代の忠尊が罪を得て罷免改易となり、陣屋も廃された。跡地は御林（幕府領有の山林）となし、家人の屋敷地等は水田・陸田となり御料所（幕府直轄領）とされた。

『新編武蔵風土記稿』には赤山の旧蹟として「陣屋跡　村の東北の方にあり。前に弁せし如く寛永六年伊奈半十郎忠治が構へしより、その後世々家人を置て守らせしが、寛政四年没収せられし時に廃して、今は御林となれり。其構の内凡二万四千坪。廻りに堀を構へ土居を築き、北の方は沼を以て要害となし、其余の三方に家人の住宅あり。南の方に鳩ヶ谷口と云門あり。是すなはち表門なりと云。其外東の方に安行・領家の二村へ行く道あり。また東北の方に越ヶ谷口と呼る道あり。北の方に石神口といへる門をも建て、是を総て四ツ門と唱へしとぞ。今はただ土居の跡残りしのみにて雑木生ひ茂れり」とある。

現在は陣屋敷の曲輪とその周辺の内堀が認められるにすぎないが、陣屋跡は総面積 77 万㎡にも及ぶ赤山陣屋跡遺跡（7）として残されている。数次にわたる川口市教育委員会の発掘調査では、堀跡や土橋、建物跡などが検出されている。

赤山陣屋跡の西側には日光御成道（以下、御成道と記す）が南北に延びている。御成道は江戸時代の日光社参専用道で、徳川将軍が日光廟へ参詣する際に用いられたためこの名がある。江戸本郷追分で中山道と分かれ、岩淵宿で荒川を渡ってから川口、鳩ヶ谷、大門、岩槻の四宿を経て幸手宿の手前で日光道中に合流する街道である。その道

第２図　周辺の遺跡

第１表　周辺の主要遺跡

1	宝蔵寺遺跡	21	道合高木前遺跡	42	浦寺字町谷第１遺跡	63	三ツ和遺跡
2	新井宿上一斗蒔遺跡	22	西立野道上遺跡	43	里字北谷第１遺跡	64	中居字畑田第１遺跡
3	東町裏遺跡	23	宮合貝塚遺跡	44	里字諏訪内第１遺跡	65	辻字稲荷第１遺跡
4	赤山源長寺前遺跡	24	枯木前遺跡	45	小谷三志居宅跡	66	辻字畑田第１遺跡
5	赤山陣屋跡遺跡	25	中台遺跡	46	鳩ヶ谷字後谷第１遺跡	67	辻字畑田第２遺跡
	(牛尾源蔵・山田文吉屋敷跡)	26	海道西遺跡	47	鳩ヶ谷字後谷第２遺跡	68	辻字畑田第３遺跡
6	赤山曲輪遺跡	27	野伝場遺跡	48	鳩ヶ谷字町添第１遺跡	69	辻字永堀第２遺跡
7	赤山陣屋跡遺跡	28	東野遺跡	49	鳩ヶ谷字町屋原第２遺跡	70	辻字永堀第１遺跡
8	赤山陣屋跡遺跡西側低地	29	古峰神社遺跡	50	鳩ヶ谷稲荷前第１遺跡	71	辻字永堀第４遺跡
9	赤山陣屋跡遺跡東側低地	30	安行慈林下村中遺跡	51	仙元嗣古墳（消滅）	72	辻字堤外第1遺跡
10	猿貝北遺跡	31	木曽呂遺跡	52	鳩ヶ谷字町屋原第１遺跡	73	里字屋敷添第１遺跡
11	猿貝貝塚遺跡	32	行衛還通遺跡	53	鳩ヶ谷字町屋原第３遺跡	74	里字屋敷添第２遺跡
12	安行領家中道東遺跡	33	戸塚立山遺跡	54	鳩ヶ谷字町屋原第４遺跡	75	里字深町第１遺跡
13	天沼遺跡	34	浦寺字落合第１遺跡	55	辻字宮地第１遺跡	76	里字深町第２遺跡
14	道上遺跡	35	浦寺遺跡	56	辻字宮地第２遺跡	77	里字屋敷添第３遺跡
15	新町口遺跡	36	浦寺字大通遺跡	57	永堀遺跡	78	里字屋敷添第４遺跡
16	石神貝塚遺跡	37	浦寺字町谷第５遺跡	58	辻字稲荷第２遺跡	79	里字曲田第１遺跡
17	ト伝遺跡	38	浦寺字落合第２遺跡	59	小渕字細沼第１遺跡	80	外谷田遺跡
18	叺原遺跡	39	浦寺字町谷第２遺跡	60	小渕字細沼第２遺跡		
19	神戸上ノ台遺跡	40	浦寺字町谷第３遺跡	61	小渕字谷中第１遺跡		
20	八本木遺跡	41	浦寺字町谷第４遺跡	62	赤井台遺跡		

筋はほぼ現在の県道さいたま鳩ヶ谷線に踏襲されており、宝蔵寺遺跡、新井宿上一斗蒔遺跡、東町裏遺跡も御成道に沿った分布となっている。

このうち、宝蔵寺遺跡と新井宿上一斗蒔遺跡は赤山陣屋跡遺跡の南西にあって、江戸時代初期は新井宿村に包括されていた。同村は関東郡代伊奈忠治と旗本荒川又六郎の知行であったが、元禄年間（1688 － 1704）以前に荒川氏の領分が分村して西新井宿村になったという。従って、宝蔵寺遺跡は御成道西側の西新井宿村、新井宿上一斗蒔遺跡は東側の新井宿村に含まれることとなる。

東町裏遺跡はこれより御成道を約 1.3 ㎞北上した旧石神村に所在する。同村も伊奈氏の知行であったが、忠尊の改易後は幕府領となった。調査地の東にある真乗院では、享保十三年（1728）四月、八代将軍吉宗が日光社参の往路で休憩を取ったという（徳川実記）。

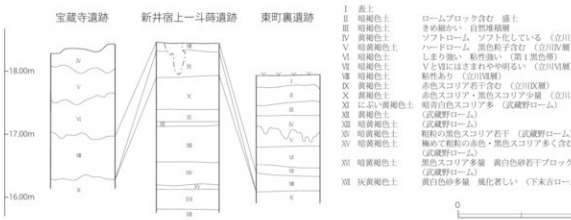
『新編武蔵風土記稿』は、石神村は陸田のみ、西新井宿村と新井宿村は天水を以て水田を耕すものの、旱損ありとする。反面、石神村は「柿の木を多く植て渋をとり、江戸へ鬻く、都にて赤山渋といへるは則此辺より出るものなり」とも記し、足立郡「土産」の筆頭に挙げている。

Ⅲ　遺跡の概要

宝蔵寺遺跡、新井宿上一斗蒔遺跡

宝蔵寺遺跡、新井宿上一斗蒔遺跡は川口市西新井宿に所在している。埼玉高速鉄道新井宿駅の北側約 200 m に位置する。大宮台地鳩ヶ谷支台のほぼ中央に当たり、周辺は中小河川によって開析された樹枝状の小谷が発達している。遺跡はこの小谷に挟まれた南北の細長い尾根状の台地の西側縁を通るさいたま鳩ヶ谷線の両脇にあたる。市内は都市化が進み、遺跡周辺も宅地化しており、住宅地と畑が混在する景観が広がっている。

基本土層は、最上層（Ⅰ層）が現在の道路敷や宅地に伴う 10 ～ 30cm ほどの盛土、その直下は



第３図　基本土層

江戸時代以降の盛土（Ⅱ層）で、近世の遺構を被覆している。Ⅲ層は江戸時代の包含層であり、遺構の掘り込み面もこの層中に認められた。確認面からローム層までおおよそ 70 ～ 80cm の厚さがあるが、縄文時代から中世の包含層は認められなかった。Ⅳ層以下は旧石器時代試掘坑で確認したローム層である。今回の調査では遺物は出土していない。

確認面の標高はおよそ 18.0 ～ 18.5 m である。新井宿上一斗蒔側が最も高く、宝蔵寺遺跡は西側の谷方向へ緩やかに傾斜している。

宝蔵寺遺跡の調査は平成 13・14・16 年度の３次にわたって行った。検出遺構数は以下のとおりである。

第１次：近世の土壙７基

第２次：近世の土壙 33 基、地下式壙１基、溝跡２条、ピット 15 基

第３次:縄文時代の土壙１基、中世の井戸跡１基、近世の土壙６基、溝跡３条、ピット９基

新井宿上一斗蒔遺跡は平成 13・16 年度の２次にわたって調査した。検出遺構数は以下のとおりである。

第１次：近世の土壙１基、地下式壙１基、溝跡１条、ピット 16 基

第２次：近世の土壙８基、溝跡６条、性格不明遺構１基、ピット９基

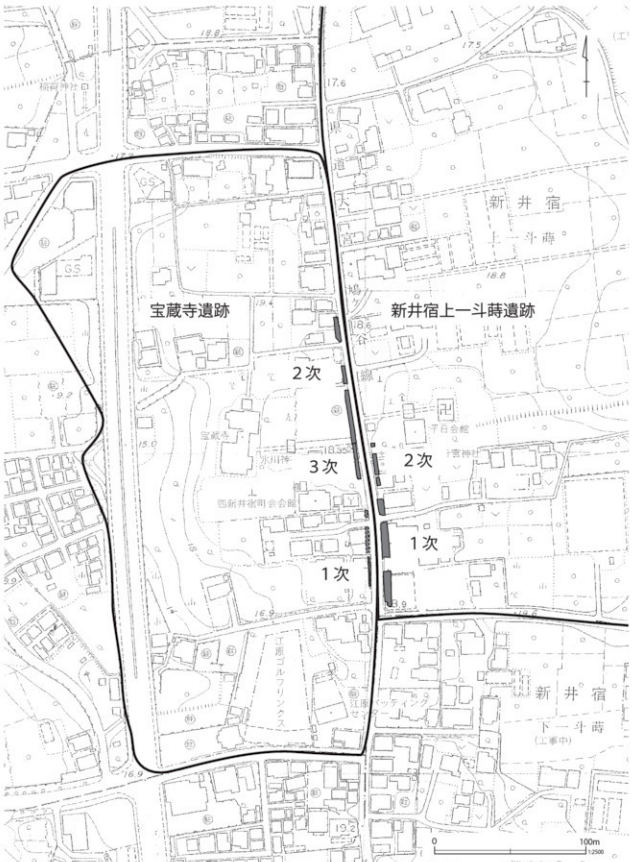
遺物は縄文土器、近世のかわらけ、肥前系磁器、瀬戸美濃系磁器、瀬戸美濃系陶器、在地産土器の火鉢、焙烙、香炉、瓦、七輪、泥面子、狛犬、砥石、石臼、鉄製品、銭貨が出土している。この他に中世の古瀬戸花瓶、折縁皿、志戸呂系皿、常滑片口鉢、甕が出土している。混入の可能性も高いが、中世段階の遺構群が近傍に存在する可能性を窺わせる。

東町裏遺跡

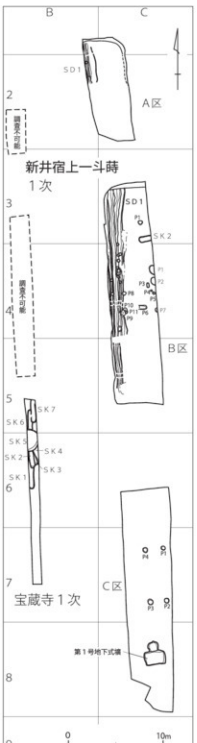
東町裏遺跡は宝蔵寺遺跡、新井宿上一斗蒔遺跡の北約 1.3km、川口市石神に所在している。宝蔵寺遺跡の北側に東西に入る谷を隔てた一段低い台地の西縁に当たる。確認面の標高はおよそ 17.3 mで、西側の谷の方向へ向かって緩やかに傾斜している。調査は当事業団、川口市遺跡調査会により各１回の調査が行われている。また南側に当事業団が一般国道 298 号建設事業に伴い調査した新町口遺跡（第 52・61 集）が接しており、同一の遺跡である可能性が高い。

川口市遺跡調査会の調査（第１次）では、旧石器時代の石器集中１箇所、縄文時代の住居跡１軒、土壙 19 基、ピット群、近世の土壙 11 基、井戸跡１基、溝跡３条、ピット群が検出されている。

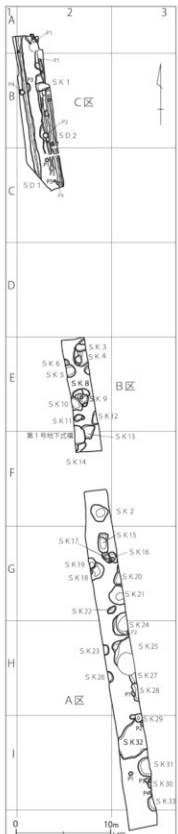
当事業団が実施した第２次調査では、近世の土



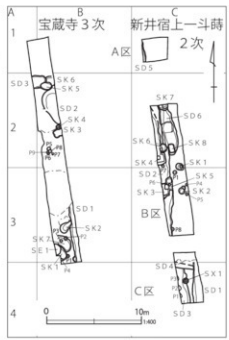
第4図　宝蔵寺・新井宿上一斗蒔遺跡調査地点位置図



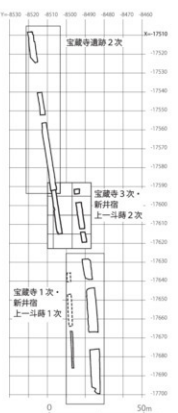
宝蔵寺1次・新井宿上一斗蒔1次



宝蔵寺遺跡2次

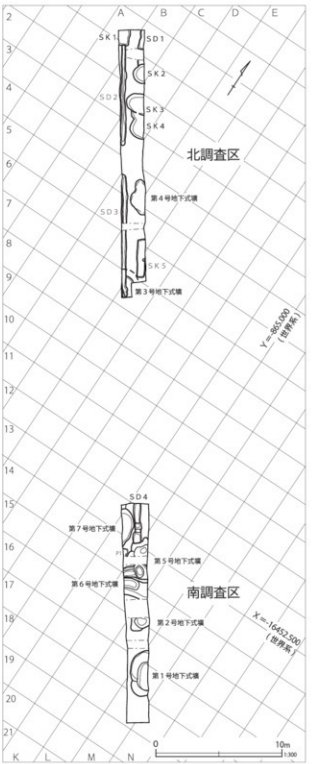


宝蔵寺3次・新井宿上一斗蒔2次



第5図　宝蔵寺・新井宿上一斗蒔遺跡全体図

第６図　東町裏遺跡調査地点位置図



第７図　東町裏遺跡全体図

壙５基、地下式壙７基、溝跡４条、ピット１基を検出した。

遺物は近世のかわらけ、肥前系磁器、瀬戸美濃系磁器、瀬戸美濃系陶器、京都信楽系陶器、在地産土器の植木鉢、火鉢、焙烙、瓦、砥石が出土している。

Ⅳ　宝蔵寺遺跡の遺構と遺物

1．第１次調査の遺構と遺物

（1）土壙

第１次調査では、近世から近代の土壙７基を検出した。新旧関係は第１号→２号、第３号→２号、第３号→４号、第７号→６号である。

平面形は長方形もしくは円形である。軸方向はほぼ南北方向に揃っている。規模は大型のものが多く、長軸 1.54 ～ 3.40 m、深度 0.15 ～ 0.62 m で、長軸 1.5 ～ 2.0 mのものが大部分である。覆土はローム土を含む暗褐色土及び黒褐色土の自然堆積ながら、第３・５・７号土壙は故意の埋め戻しの可能性が高い。遺物はかわらけ、近世陶磁器、瓦、土製品、銭貨、砥石等が出土している。

検出位置、規模、長軸方向、重複関係については第２表に示した。

このうち、第５号土壙は規模が大きく、遺物も多いため概略を述べる。

第５号土壙（第９図）

第１次調査区のＢ－６グリッドに位置する。径 2.34 m、深さ 0.62 mで規模が大きい。覆土は故意の埋め戻しで、炭化材を多く含む３層を挟んで下層はロームブロック、上層は小礫と砂を多く含む。一種の廃棄土壙と考えられる。

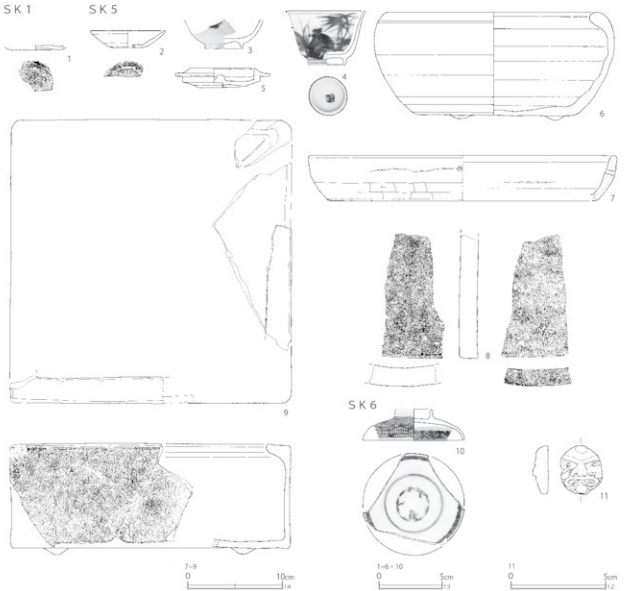
遺物は近世のかわらけ、瓦質の近世土器、瀬戸美濃系磁器、肥前系磁器、京都信楽系陶器、砥石等が出土している。

土壙出土遺物（第８図）

１・２はロクロ成形のかわらけである。２は薄手で、江戸府内産のかわらけの可能性がある。４は瀬戸美濃系磁器で呉須絵、圏線が見られ、高台裏に銘が入れられている。５は京都信楽系陶器の土瓶の蓋である。６は瓦質土器の火鉢で、硬質である。７は所謂平底瓦質焙烙で、補修孔が認められる。８は平瓦で広端面が遺存する。丁寧なナデが施されているようだが、内外面、断面に煤が付着するため不明瞭である。９は瓦質の火鉢である。方形で外面に縮緬模様が施されている。10 は肥前磁器の描絵碗蓋である。外面微塵唐草、内面口縁部四方襷、天井部に圏線と鳥文が描かれている。11 は天狗の泥面子である。

第２表　土壙一覧表（第９図）　　単位：m

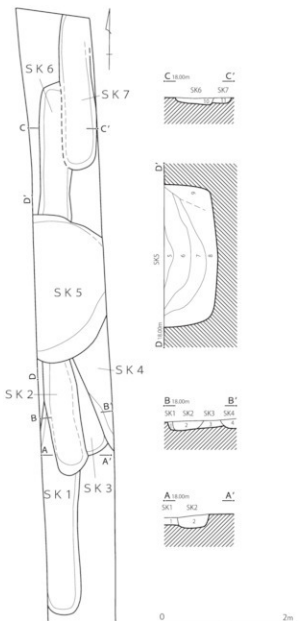
遺構名	時期	グリッド	重複	長軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	平面形	遺物	備考
１号土壙	近世	Ｂ－６	SK2（新）	Ｎ－３°－Ｗ	3.40	0.58	0.15	皿形	隅丸長方形	かわらけ　染付碗　銭貨	
２号土壙	近世	Ｂ－６	SK1･3（旧）SK5	Ｎ－７°－Ｗ	1.76	0.53	0.16	鍋底形	隅丸長方形	かわらけ	
３号土壙	近世	Ｂ－６	SK2･4（新）SK5	Ｎ－17°－Ｗ	1.54	0.34	0.21	皿形	不明		
４号土壙	近世	Ｂ－６	SK3（旧）　SK5	Ｎ－23°－Ｗ	1.58	0.62	0.24	皿形	不明		
５号土壙	近世～近代	Ｂ－5･6	SK2･3･4･6	Ｎ－６°－Ｗ	2.34	1.10	0.62	箱形	円形	かわらけ　染付碗　火鉢　焙烙　平瓦　砥石　鉄製品	
６号土壙	近代	Ｂ－5	SK7（旧）　SK5	Ｎ－３°－Ｗ	2.05	0.51	0.11	皿形	隅丸長方形	染付碗･蓋　焙烙　火鉢　泥面子	
７号土壙	近世	Ｂ－5	SK6（新）	Ｎ－４°－Ｗ	2.43	0.50	0.14	皿形	隅丸長方形		



第８図　土壙出土遺物

第３表　土壙出土遺物観察表（第８図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	かわらけ	皿	－	0.4	(4.0)	H	25	普通	にぶい褐	SK1 底部回転糸切り 18~19C	
2	かわらけ	小皿	(5.8)	1.4	(2.8)	AHIK	25	普通	橙	SK5　19Ｃ前半	
3	磁器	小坏	－	2.4	3.0	IK	25	良好	灰白	SK5　瀬戸美濃　19Ｃ前半～中頃	
4	磁器	坏	6.0	4.35	2.9	IK	55	良好	灰白	SK5 染付 裏銘 瀬戸美濃磁器 19Ｃ後半	11-1
5	陶器	蓋	7.5	1.5	3.8	I	100	良好	灰黄	SK5 口径2 5.2cm 施釉 京都信楽系陶器 19Ｃ前半	12-4
6	瓦質土器	火鉢	(16.6)	8.6	12.6	IK	50	普通	灰	SK5 3脚 内外面煤付着 19Ｃ前~後半	11-2
7	瓦質土器	焙烙	(32.4)	4.8	(28.5)	CHIK	5	普通	褐灰	SK5　体部外面煤付着　補修孔	
8	瓦	平瓦	長さ[13.0]cm 幅[7.1]cm　厚さ2.0cm			IK	5	普通	にぶい黄橙	SK5　時期不明	
9	瓦質土器	火鉢	(24.8)	11.6	(29.4)	IK	25	普通	黒	SK5	12-3
10	磁器	蓋	(7.8)	2.5	2.8	I	60	良好	灰白	SK6 染付 肥前磁器 19C中~後半	
11	土製品	泥面子	長さ2.6cm　幅2.2cm 厚さ0.85cm　重さ3.4ｇ			HIK	90	普通	橙	SK6　19Ｃ以降	12-9



SK1
1　暗褐色土　ロームブロック若干　ローム粒子少量

SK2
2　暗褐色土　ロームブロック少量　ローム粒子やや多量

SK3
3　黒褐色土　ロームブロック多量　ローム粒子少量

SK4
4　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子多量

SK5
5　黒褐色土　ロームブロック・小礫少量
6　暗褐色土　ロームブロック・小礫・砂粒やや多量
7　暗褐色土　ロームブロック・炭化材多量
8　暗褐色土　ロームブロックやや多量
9　暗褐色土　ロームブロック・ローム粒子極めて多量

SK6
10　暗褐色土　ローム粒子少量

SK7
11　黄褐色土　ロームブロック・ローム粒子極めて多量

第９図　土壙

２．第２次調査の遺構と遺物

第２次調査では、近世の土壙33基、地下式壙１基、溝跡２条、ピット15基を検出した。

（１）土壙

第２次調査では、近世の土壙33基を検出した。検出位置、規模、長軸方向、重複関係については第４表に示した。いずれも重複しており、新旧関係は第３号→４号、第５号→６号、第９号→８号、第27号→28号である。

平面形は円形、楕円形を基本とするが不整形のものも多い。軸方向はほぼ南北方向、東西方向に揃っている。規模は長軸0.60～3.37ｍと大小があるが、1.0～1.5ｍのものが多い。深さは0.15～0.74ｍで、0.2～0.5ｍのものが大部分である。覆土はローム土を含む暗褐色土、黒褐色土、褐色土、灰褐色土、灰黄褐色土の自然堆積で、ロームを多量に含む第12・14・15・17～19・21・22・33号土壙は故意の埋め戻しの可能性が高い。

遺物は中世の板碑片、陶器、かわらけ、近世陶磁器、瓦、土製品、銭貨、板碑、鉄製品、砥石等が出土している。

このうち、第31・32号土壙は規模が大きく、遺物も多いため概略を述べる。

第31号土壙（第14図）

第２次調査Ａ区のⅠ－３グリッドに位置する。径2.15ｍ、深さ0.66ｍと規模が大きい。覆土は北側からの流れ込みによる自然堆積と考えられる。近世のかわらけ、志野皿、瀬戸美濃系陶磁器、肥前系磁器、瓦、銭製品、緑泥片岩片等が出土している。覆土の状況と出土遺物から近世に帰属する遺構と判断した。

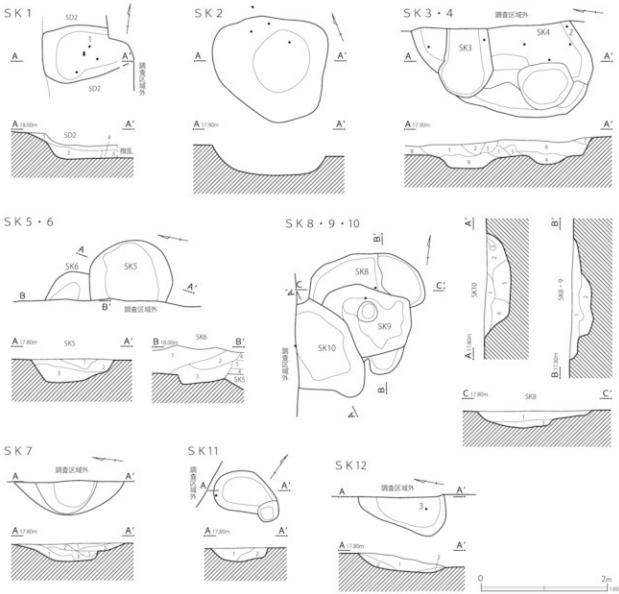
第32号土壙（第14図）

第２次調査Ａ区のⅠ－３グリッドに位置する。３ｍを超える規模があり、さらに東西は調査区域外に延びていることから、他の土壙とは異なる性格の遺構かもしれない。覆土は自然堆積で、近世のかわらけ、美濃天目碗、在地産土器焙烙、緑泥

第４表　土壙一覧表（第10～12・14図）　　単位：m

遺構名	時期	グリッド	重複	長軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	平面形	遺物	備考
１号土壙		B－2	SD2（新）	N－83°－E	1.16	0.90	0.41	皿形	隅丸長方形	かわらけ　染付碗　焙烙　唐津碗	
２号土壙		F－2		N－54°－W	1.78	1.62	0.47	鍋底形	不整円形	陶器鉢　縄文土器	
３号土壙		E－2	SK4（新）	N－80°－E	1.10	0.86	0.37	皿形	不整円形	砥石　鉄製品	
４号土壙		E－2	SK3（旧）	N－5°－E	2.87	1.52	0.36	逆台形	楕円形	磁器　焙烙　緑泥片岩	
５号土壙		E－2	SK6（新）	N－27°－W	1.34	0.96	0.34	逆台形	円形	陶器碗	
６号土壙		E－2	SK5（旧）	N－23°－E	0.60	0.50	0.15	皿形	楕円形		
７号土壙		E－2		N－7°－W	0.94	0.51	0.18	逆台形	円形		
８号土壙		E－2	SK9（旧）　SK10	N－8°－W	1.90	1.81	0.18	皿形	不整形	陶磁器　鉄銭	
９号土壙		E－2	SK8（新）　SK10	N－26°－W	1.50	1.06	0.52	逆台形	不整形		
10号土壙		E－2	SK8・9	N－37°－W	1.68	1.07	0.41	逆台形	不整形	陶器	
11号土壙		E－2		N－82°－E	1.08	0.68	0.22	皿形	不整楕円形	焙烙	
12号土壙		E－2		N－5°－E	1.42	0.63	0.27	皿形	楕円形	灯明受皿	
13号土壙		E･F－2	第１号地下式壙	N－88°－W	1.48	1.42	0.35	逆台形		陶器　焙烙	
14号土壙		F－2	第1号地下式壙（旧）	N－46°－E	1.43	0.90	0.39	逆台形	不明		
15号土壙		G－2･3	SK16･17	N－4°－W	2.08	1.75	0.39	鍋底形	隅丸長方形	かわらけ　陶磁器　焙烙　鉢	
16号土壙		G－2･3	SK15･17	N－32°－W	1.22	0.69	0.48	箱形	楕円形		
17号土壙	近世	G－2･3	SK15･16	N－50°－W	1.38	0.77	0.34	皿形	不整楕円形		
18号土壙	近世	G－2	SK19	N－6°－E	1.88	1.31	0.37	皿形	不整形		
19号土壙	近世	G－2	SK18	N－3°－E	1.13	0.74	0.34	逆台形	不明		
20号土壙	近世	G－3		N－2°－W	2.03	0.78	0.21	皿形	不明		
21号土壙	近世	G－2･3		N－18°－W	2.07	1.55	0.50	鍋底形	不整円形	かわらけ　陶器土玉	
22号土壙	近世	G･H－3		N－46°－E	1.04	0.66	0.24	皿形	楕円形	焙烙	
23号土壙	近世	H－2		N－9°－W	1.04	0.56	0.15	逆台形	楕円形		
24号土壙	近世	G･H－3		N－8°－W	2.34	1.61	0.41	逆台形	不整楕円形		
25号土壙	近世	H－3		N－21°－E	3.37	2.28	0.33	逆台形	不明	陶磁器　焙烙　摺鉢　常滑　平瓦　（鉄片）	
26号土壙	近世	H－2･3		N－9°－W	1.17	0.54	0.23	逆台形	不明	陶器　焙烙	
27号土壙	近世	H－3	SK28（新）	N－8°－W	1.36	0.66	0.35	皿形	不明		
28号土壙	近世	H－3	SK27（旧）	N－10°－W	1.93	0.63	0.47	逆台形	不整楕円形	陶磁器　焙烙	
29号土壙	近世	H･I－3	SK32	N－2°－E	0.84	0.75	0.74	逆台形	楕円形	陶磁器碗他　かわらけ　緑泥片岩砥・板碑	突出部あり
30号土壙	近世	I－3		N－1°－W	1.12	0.38	0.59	逆台形	不明	陶器　焙烙　瓦	
31号土壙	近世	I－3		N－12°－W	2.15	1.25	0.66	逆台形	不明	陶磁器　かわらけ　平瓦　緑泥片岩　鉄製品	
32号土壙	近世	I－3	SK29･31	N－59°－E	3.24	3.12	0.37	皿形か	不明	かわらけ　天目碗　焙烙　摺鉢　緑泥片岩	
33号土壙	近世	I･J－3		N－10°－W	1.62	0.66	0.41	逆台形	不明		

片岩片等が出土している。覆土の状況と出土遺物から近世に帰属する遺構と判断した。



SK1
1 暗褐色土
2 黒褐色土
3 黒褐色土 ロームブロック含む

SK3・4
1 黒褐色土 ローム・ロームブロック含む
2 黒褐色土 ロームブロック多量
3 黄褐色土 酸化したロームブロック層
4 明褐色土
5 黒褐色土
6 黒褐色土 明褐色土粒子若干
7 暗褐色土
8 黒褐色土 ロームブロック微量
9 暗黄褐色土

SK5
1 灰褐色土
2 灰褐色土 ロームブロック含む
3 暗黄褐色土

SK6
1 暗褐色土 ロームブロック含む しまりなし
2 黒褐色土 ローム含む
3 黒褐色土 ロームブロック若干
4 黒褐色土 ロームブロック(小型)含む

SK7
1 黒褐色土 ローム含む しまりなし
2 黒褐色土
3 暗黄褐色土

SK8・9
1 黒褐色土 ローム粒子含む
2 暗黄褐色土

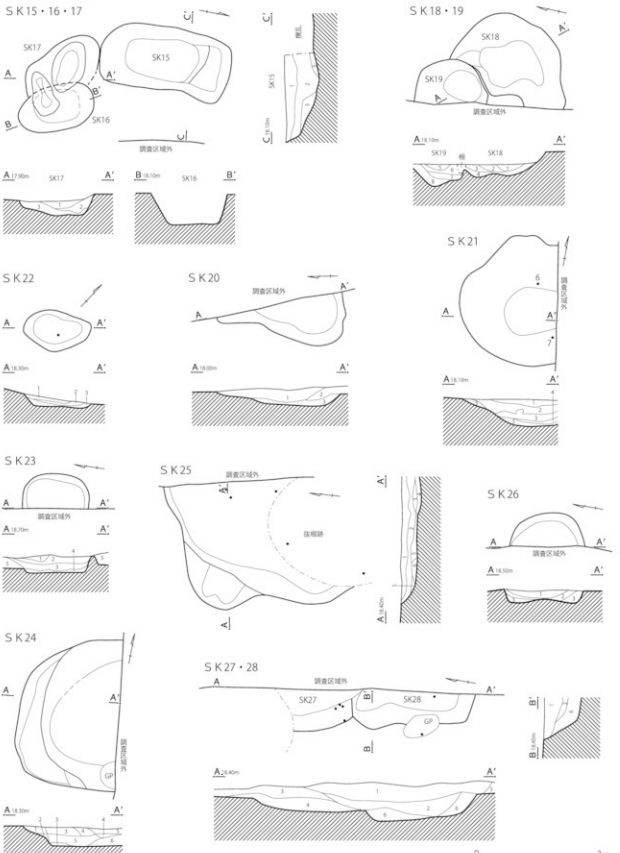
SK10
1 黒褐色土 ローム粒子含む
2 黒褐色土 ロームブロック含む
3 明黄褐色土
4 明黄褐色土 黒褐色土微量
5 明黄褐色土 しまり強い

SK11
1 黒褐色土 ローム粒子含む
2 黄褐色土

SK12
1 暗褐色土 ロームとの混土層
2 暗褐色土

SK14
1 褐色土 ロームブロック(中型)多量
炭化物少量 しまり・粘性なし

第10図 土壙(1)


SK15・16・17
SK17
SK15
SK16
調査区域外
SK18・19
SK18
SK19
調査区域外
SK21
調査区域外
SK22
SK20
調査区域外
SK23
調査区域外
SK25
調査区域外
後期跡
SK26
調査区域外
SK24
SK27・28
調査区域外
SK27
SK28
GP
0
2m

第11図　土壙(2)

SK15
1 暗褐色土 ローム粒子少量 しまりなし 礫含む
2 暗褐色土 ロームブロック(中型)少量 しまりなし 礫含む
3 褐色土 ロームブロック(大型)多量 しまりなし

SK17
1 暗褐色土 ローム粒子(大型)多量 しまりなし
2 暗褐色土 ローム粒子(大型)中量 しまりなし
3 暗褐色土 ロームブロック(小型)多量 しまりなし

SK18・19
1 暗褐色土 ロームブロック少量 しまりなし
2 褐色土 ローム粒子(大型)多量 しまりなし
3 褐色土 ロームブロック(小型)中量 しまりなし
4 褐色土 ロームブロック(小型)多量 しまりなし
5 褐色土 ロームブロック含む しまりなし
6 褐色土 ロームブロック(中型)多量 しまりなし
7 暗褐色土 ロームブロック(小型)多量 しまりなし
8 褐色土 ロームブロック含む しまりなし

SK20
1 暗黄褐色土 ロームブロック少量 しまりなし
2 暗黄褐色土 ローム粒子(大型)中量 しまりなし
3 褐色土 ロームブロック中量 しまりなし

SK21
1 暗褐色土 ローム粒子少量 しまりなし
2 暗褐色土 ロームブロック(中型)中量 しまりなし
3 褐色土 ロームブロック(大型)多量 しまりなし
4 暗褐色土 ロームブロック(中型)中量 しまりなし
5 褐色土 ロームブロック(中型)多量 しまりなし

SK22
1 褐色土 ロームブロック(中型)多量 しまりなし
2 暗褐色土 ローム粒子(大型)中量 しまりなし
3 褐色土 ロームブロック多量 しまりなし

SK23
1 暗褐色土
2 暗褐色土
3 褐色土
4 褐色土
5 暗褐色土

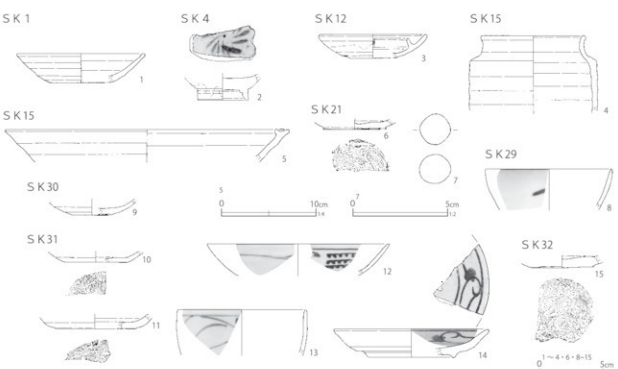
SK24
1 灰黄褐色土
2 褐色土
3 黄褐色土 黒褐色土多量
4 褐色土 黒褐色土若干
5 黒褐色土 ロームブロック含む
6 黒褐色土

SK25
1 暗黄褐色土
2 暗黄褐色土 ロームブロック若干 しまり弱い
3 黒褐色土
4 褐色土
5 黒褐色土 ロームブロック多量
6 黒褐色土 ローム粒子若干

SK26
1 暗褐色土 ローム粒子少量
2 暗褐色土 ロームブロック含む
3 褐色土 ロームブロック含む

SK27・28
1 暗黄褐色土 ローム粒子若干
2 灰黄褐色土
3 褐色土
4 暗灰黄褐色土
5 褐色土
6 灰黄褐色土 ローム含む

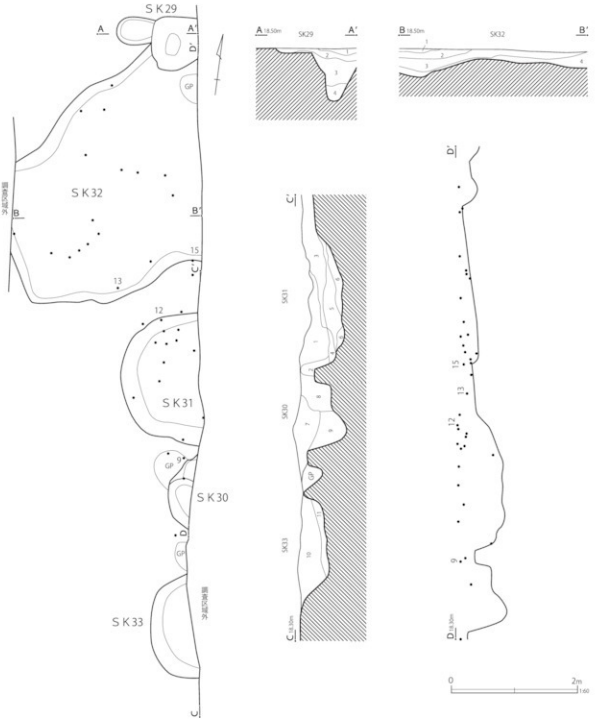
第12図 土壙(3)



第13図 土壙出土遺物

土壙出土遺物(第13図)

1・6・10・11はロクロ成形のかわらけである。底面回転糸切り。2は初期伊万里の碗で、外面は青磁釉、高台は無釉である。見込みには菊花文が描かれている。3は瀬戸美濃系の灯明皿で、鉄釉が施され、外面下半は無釉である。5は古瀬戸の折縁深皿で、内外面全体に灰釉が施されている。7は土製品の玉で、表面は平滑に整えられている。8・12・13は磁器である。12は内面に波文が、13は外面に草文が描かれている。14は志野の鉄絵唐草文皿である。底面無釉。15は志戸呂系陶器の皿である。



SK29
1　暗褐色土　ローム粒子中量
2　褐色土　ローム粒子中量
3　褐色土　ロームブロック含む　ローム粒子少量
4　褐色土　ロームブロック（中型）多量

SK32
1　暗褐色土　ローム粒子中量
2　褐色土　ローム粒子多量　白色粘土ブロック含む
3　褐色土　ローム粒子少量　白色粘土ブロック中量　焼土含む
4　褐色土　ローム粒子多量

SK30・31・33
1　暗褐色土　ロームブロック含む
2　暗黄褐色土
3　褐色土　暗褐色土多量
4　暗黄褐色土　ローム若干　しまりなし
5　黒褐色土　灰白粘土塊含む
6　褐色土
7　暗褐色土
8　暗褐色土　しまり弱い
9　暗褐色土　ローム含む
10　灰黄褐色土　ロームブロック（小型）多量
11　褐色土

第14図　土壙（4）

第５表　土壌出土遺物観察表(第13図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	かわらけ	小皿	(10.0)	2.3	(5.0)	ＨＩＫ	10	普通	橙	SK1 底部回転糸切り 時期不明 №1	
2	陶器	碗	－	2.1	(4.0)	ＩＫ	25	良好	灰白	SK4 初期伊万里　17Ｃ中葉　№4	12-4
3	陶器	灯明皿	(8.4)	1.9	(3.8)	Ｉ	20	良好	にぶい黄橙	SK12 鉄釉　口径２（5.4）cm　瀬戸美濃　19Ｃ前　№1	
4	陶器	茶入	(8.0)	6.2	－	Ｉ	10	普通	浅黄	SK15 鉄釉　内外面施釉　瀬戸美濃	12-4
5	陶器	折縁深皿	(30.0)	3.5	－	Ｉ	5	良好	浅黄	SK15 内外面灰釉 口径2（27.4）cm 古瀬戸 古瀬戸後Ⅲ期-古古期 15C前半-中頃	12-4
6	かわらけ	皿	－	0.8	(5.0)	ＨＩ	20	普通	橙	SK21 底部回転糸切り 時期不詳 №1	
7	土製品	土玉	径1.65×1.5 cm		重3.6 g	ＨＩＫ	100	普通	にぶい橙	SK21　№2	12-10
8	磁器	碗	(10.0)	3.3	－	Ｉ	15	良好	灰白	SK29　染付碗　瀬戸美濃　19Ｃ前半	
9	陶器	皿	－	1.3	(3.0)	Ｉ	25	良好	灰白	SK30 内面灰釉 瀬戸美濃 近世 №2	
10	かわらけ	皿	－	0.9	(5.0)	ＨＩ	10	普通	灰黄褐	SK31 内外面煤付着 底部回転糸切り 近世	
11	かわらけ	皿	－	1.2	(6.4)	ＨＩＫ	10	普通	橙	SK31　底部回転糸切り　近世	
12	磁器	皿	(14.4)	2.5	－	ＩＫ	10	良好	灰白	SK31 内外面染付 瀬戸美濃 19Ｏ中-後半 №5	
13	磁器	碗	(10.0)	3.7	－	ＩＫ	15	良好	灰白	SK31 染付 肥前 17C後半 №10	
14	陶器	皿	(12.0)	2.3	(6.9)	Ｉ	15	良好	灰白	SK31　施釉　志野鉄絵皿　17Ｃ前半	12-4
15	陶器	皿	－	1.0	5.0	ＨＩ	50	普通	橙	SK32 底部回転糸切り 志戸呂系 15-16C №17	12-4

（2）地下式壙

第２次調査では、近世の地下式壙１基を検出した。

第１号地下式壙（第15図）

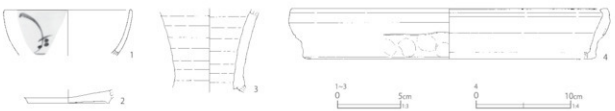
第２次調査B区南側のＥ・Ｆ－２グリッドに位置し、第13・14号土壙と重複している。南側に入り口部が取り付いており、全体の平面形はＴ字形を呈すると思われる。規模は主軸方向2.60 m、調査区内の幅1.10 mである。入口部の深さは0.40 mで、段を持って地下室に至る。地下室の深さは1.0 mである。

入口部から地下室方向を主軸とすると、その方位はほぼ南北を指す。入口部は長さ0.65 m、幅は調査区内で0.30 m、壁はほぼ垂直に立ち上がり、段の床面は地下室へ向かって傾斜している。地下室は長さ2.0 mの楕円形である。覆土は下位

第15図　第１号地下式壙

にロームブロックを含む厚い層（５層）があり、天井を故意に落としたものと考えられる。上部はローム粒を含む褐色土と暗褐色土で、自然堆積である。４の焙烙は３層中からの出土である。

遺物は中近世の陶器４点のみである。１は肥前系磁器の梅樹文碗である。２は瀬戸美濃灰釉皿で、外面は二次的に被熱している。３は古瀬戸の灰釉が施される花瓶である。４は所謂平底瓦質焙烙である。



第16図　第1号地下式壙出土遺物

第6表　第1号地下式壙出土遺物観察表（第16図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(10.0)	3.7	－	ＩＫ	10	良好	灰白	染付 肥前 18C後~19C前半 №6	
2	陶器	Ⅲ	－	1.1	(6.4)	Ⅰ	25	良好	灰	灰釉 瀬戸美濃 17C前半 №9	12-4
3	陶器	花瓶	－	6.7	－	ＩＫ	30	良好	灰黄	内外面一部釉流れる 古瀬戸 古瀬戸後期Ⅰ~Ⅱ期 15C前半 №2	12-4
4	瓦質土器	焙烙	(33.6)	5.3	(31.2)	ＣＨＩＫ	5	普通	黒褐	外面煤付着 18~19C№1	

（3）溝跡

第２次調査では、近世の溝跡２条を検出した。検出位置、規模、軸方向、重複関係については第７表のとおりである。

第１号溝跡（第17図）

第２次調査C区西側のA・B－１・２、C－２グリッドに位置する。東側約１mに第２号溝跡が平行している。

覆土はロームブロックを含む暗褐色土と黒褐色土で、しまりは均等ではない。自然堆積と考えられるが、下層はブロック土が多く、埋め戻しの可能性がある。遺物は近世の瀬戸美濃系陶器碗、肥前系磁器碗、在地産土器、瓦が出土している。

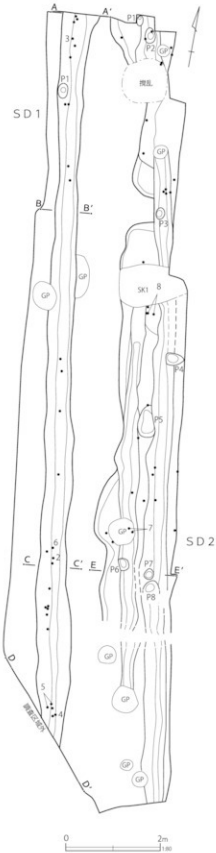
第２号溝跡（第17図）

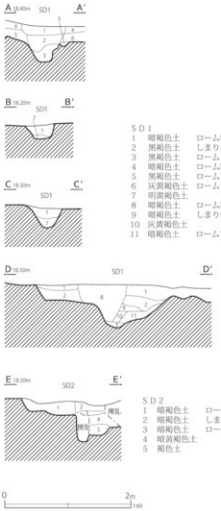
第２次調査C区東側のA～C－２グリッドに位置する。東側約１mに第１号溝跡が平行している。幅1.8 m、深さ0.2 mの掘り込みに、一段深い幅0.3～0.5 mの２条の溝跡が掘り込まれる形態である。覆土はロームブロックを含む暗褐色土と褐色土で、下層は埋め戻しの可能性がある。

遺物は中世の常滑焼の甕、近世の瀬戸美濃系、丹波、堺・明石系擂鉢、肥前系磁器、かわらけ、在地産土器、瓦、砥石、鉄製品が出土している。中世の常滑焼の甕は混入と考えられる。

第７表　溝跡一覧表（第17図）

遺構名	時期	グリッド	重複	軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	遺物	備考
１号溝	C	A·B－1·2 C－2		N－9°－W	15.18	0.36 0.74	0.19 0.30	薬研	陶磁器 筒形碗 広東碗 擂鉢 皿 桟瓦 丸瓦 平瓦	
２号溝	C	A～C－2	SK1(旧)	N－10°－W	16.52	0.36 1.74	0.18 0.58	薬研	陶磁器 かわらけ 焙烙 丸瓦 砥石 鉄製品	





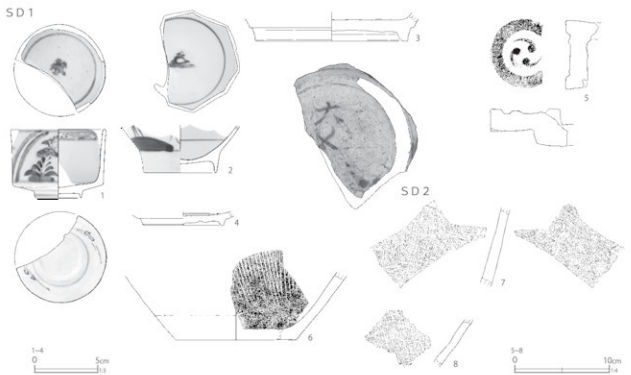
SD1
1　暗褐色土　ローム粒子多量
2　黒褐色土　しまりなし
3　黒褐色土　ロームブロック混合土
4　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック若干
5　黒褐色土　ロームブロック含む
6　灰黄褐色土　ロームブロック多量
7　明黄褐色土
8　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック含む
9　暗褐色土　しまり弱い
10　灰黄褐色土
11　暗褐色土　ロームブロック若干　しまりなし

SD2
1　暗褐色土　ローム含む　しまりあり
2　暗褐色土　しまりなし
3　暗褐色土　ロームブロック若干
4　暗黄褐色土
5　褐色土

第17図　第1・2号溝跡

溝跡出土遺物（第18図）

1・2は肥前系磁器の筒形碗、広東碗である。1は外面草花文、内面口縁四方襷、見込みに花文が施されている。2は外面呉須絵と圏線、見込みに圏線と山文が施されている。3は瀬戸美濃鉄釉半胴甕で、内面にトチン跡、底面に「大メ」の墨書が認められる。4は瀬戸美濃灰釉皿で、内外面に重ね焼きの痕跡が見られる。5は三ツ巴文の軒桟瓦である。7は常滑焼の甕胴部下半の破片で、外面には刷毛目が認められる。



第18図　第1・2号溝跡出土遺物

第8表　第1・2号溝跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	(7.4)	5.5	3.8	K	40	良好	灰白	SD1 筒形碗 染付 肥前 18C後半	11-3
2	磁器	碗	－	3.8	(5.8)	I	60	良好	灰白	SD1 広東碗 染付 肥前 19C前半 №16	11-4
3	陶器	半胴甕	－	2.4	(12.0)	HIK	40	普通	にぶい黄橙	SD1 底面墨書「大メ」 内面鉄釉 瀬戸美濃 18C後～19C前半 №4	12-5
4	陶器	皿	－	1.1	(6.4)	IK	30	良好	にぶい黄橙	SD1 灰釉 内外面重ね焼き痕 瀬戸美濃 17C後半 №25	12-5
5	瓦	軒桟瓦	瓦当径7.9cm ～2.2cm	厚さ1.7 高さ8.1cm		IK	80	普通	灰白	SD1 三ツ巴文 18C後半以降 №22・23	
6	陶器	擂鉢	－	7.2	(13.0)	EIK	15	良好	明赤褐	SD1 堺・明石系 18C後～19C前半 №14	12-5
7	陶器	甕	－	8.4	－	EIK	5	良好	黄灰	SD2 常滑 13～14C №26・27	12-5
8	陶器	擂鉢	－	5.3	－	EIK	5	良好	にぶい黄橙	SD2 丹波 17C後～18C前半 №16・32	12-5

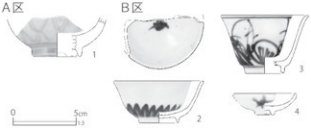
（4）ピット

調査区全体からピットを15基検出した。大部分がC区に分布している。これらの位置、規模、重複関係については第9表に示した。

いずれも出土遺物がなく、設営時期は不明だが、土壌や溝跡同様の暗褐色覆土で、近世の遺構と考えられる。間隔や深度等に規則性は窺えないことから、建物跡や柵列の柱穴ではないと考えられる。

第９表　ピット一覧表

グリッド	番号	長径	短径	深さ	備考
A-2	P1	0.26	0.25	0.51	SD2
B-2	P1	0.34	0.29	0.42	SD2
	P2	0.60	0.56	0.58	SD2
	P3	0.90	0.27	0.12	SD1
	P4	0.62	0.48	0.22	SD1
C-2	P1	0.40	0.40	0.36	SD2
	P2	0.58	0.52	0.12	SD2
	P3	0.26	0.24	0.05	
	P4	0.35	0.33	0.53	SD2
H-3	P1	0.60	0.34	0.36	SK28
	P2	0.42	0.22	0.33	SK24
I-3	P1	0.43	0.38	0.13	
	P2	0.45	0.24	0.27	SK32
	P3	0.57	0.40	0.32	SK30
	P4	0.44	0.18	0.33	



第19図　グリッド出土遺物

第10表　グリッド出土遺物観察表(第19図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	―	3.2	(3.6)	I K	25	良好	灰白	肌区 施釉 染付 肥前磁器 17C後-18C前半	12-5
2	磁器	坏	(7.0)	3.4	3.0	I K	50	良好	灰白	肌区 内面見込-外面下部染付 肥前磁器 時期不明	11-6
3	磁器	坏	(6.8)	4.6	(3.0)	I K	30	良好	灰白	肌区 施釉 染付 瀬戸美濃磁器 19C後半	11-5
4	磁器	紅皿	4.8	1.7	1.6	I K	50	良好	灰白	肌区 施釉 染付 瀬戸美濃系磁器 19C前-中頃	

(5) グリッド出土の遺物

表土掘削及び遺構確認時に、調査区全体から、縄文土器、石器、近世の陶磁器、銭貨が少量出土した。１・２は肥前系磁器である。１には二重網目文、２には下半に波文、見込みに雲と月が入れられている。３・４は瀬戸美濃系磁器である。３には草花文、４には動物と考えられる文が描かれている。

３．第３次調査の遺構と遺物

第３次調査では、縄文時代の土壙１基、中世の井戸跡１基、近世の土壙６基、溝跡３条、ピット９基を検出した。

(1) 土壙

第３次調査では、縄文時代の土壙１基、近世の土壙６基を検出した。検出位置、規模、長軸方向、重複関係については第 11 表に示した。

平面形は楕円形もしくは不整楕円形である。軸方向は東西方向のものと北東－南西、北西－南東方向のものがある。規模は長軸 0.51 ～ 1.68 m と大小があるものの、長軸 0.9 ～ 1.2 m のものが多い。深さは 0.14 ～ 1.08 m で、0.15 ～ 0.4 m のものが大部分である。覆土はローム土を含む暗褐色土、黒褐色土、褐色土の自然堆積だが、ロームを多量に含む第１・２・４・５号土壙は埋め戻しの可能性がある。遺物は近世陶磁器、瓦、銭貨、

第11表　土壙一覧表(第21図)　　単位:m

遺構名	時期	グリッド	重複	長軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	平面形	遺物	備考
１号土壙	近世	B－3	SE1(旧) P4(新) P1	N－6°－W	1.59	1.10	0.41	箱形	不明	常滑甕　砥石 銭貨　丸瓦　鉄製品(円板)	
２号土壙	近世	B－3	SD1	N－50°－E	1.46	0.92	0.28	皿形	不明	常滑甕　染付碗	
３号土壙	近世	B－2	SK4	N－67°－E	0.96	0.82	0.14	皿形	不整形		
４号土壙	近世	B－2	SK3	N－59°－E	0.51	0.48	0.20	皿形	円形		
５号土壙	近世	B－2	SD3(新)　SK6	N－85°－W	1.15	0.79	0.40	逆台形	楕円形		
６号土壙	近世	B－2	SD2(新)　SD3 SK5	N－20°－W	1.03	0.96	0.18	皿形か	不明		
７号土壙	縄文	B－3		N－47°－W	1.68	1.10	1.08	鍋底形	不整楕円	常滑甕　鉢	

鉄製品、砥石等が出土している。

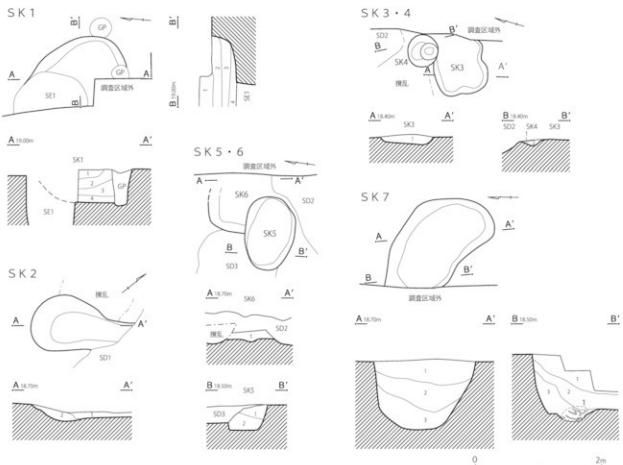
このうち、第７号土壙は規模が大きく、底面付近から縄文土器がまとまって出土しているため概略を述べる。

第７号土壙（第21図）

第３次調査Ｂ－３グリッドに位置する。長径1.68 m、深さ1.08 mと規模が大きい。覆土は北側からの流れ込みによる自然堆積と考えられる。

第20図　土壙出土遺物

縄文時代中期後半の深鉢片が、底面付近からまとまって出土している。



SK1
1　褐色土　　ロームブロック少量　ローム粒子（径２～５㎜）多量　黒色土粒子を含む　粘性あり　しまりあり
2　黒褐色土　ロームブロック（径２～３cm）を含む　ローム粒子（径２～５㎜）多量　しまりあり
3　褐色土　　ロームブロック（径３cm前後）多量　しまりあり
4　黒褐色土　ロームブロック（径３cm前後未風化ハードローム）多量　しまりあり

SK2
1　暗褐色土　ロームブロック（１～２cm）少量　しまり弱い（ボソボソ）　粘性弱い
2　暗褐色土　ロームブロック（１～２cmの角の残る）多量　しまりあり　粘性あり

SK3
1　褐色土　ロームブロック・ローム粒子含む　しまりあり　粘性ややあり

SK4
1　暗褐色土　ローム粒子（径１㎜～２㎜）多量　焼土粒子微量　しまりややあり　粘性あり
2　褐色土　　ロームブロック（径３cm前後未風化）多量　しまり・粘性ややあり

SK5
1　褐色土　ローム粒子（径１～2mm）多量
2　褐色土　ロームブロック（径１～2cm）多量

SK6
1　暗褐色土　ローム粒子（1cm以下）含む

SK7
1　暗赤褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（径0.5～１㎜）微量　全体にブロック状を呈する
2　暗赤褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（径0.5～１㎜）微量　１層より明度落ちる
3　暗赤褐色土　ローム粒子・炭化物粒子（径0.5～１㎜）微量　２層より明度落ちる

第21図　土壙

（2）井戸跡

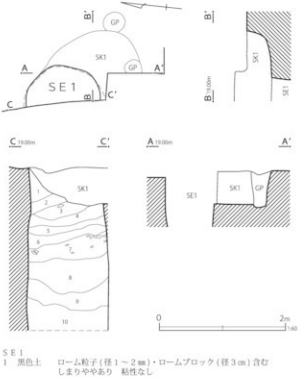
第３次調査では、中世の井戸跡が１基検出された。確認面から 2.5 m程度の深さまで掘削し、さらに１mのピンポールを刺し底面を探ったが確認するには至らなかった。安全上の配慮から、この時点で下層の調査を断念した。

第１号井戸跡（第 23 図）

調査区南端の第３次調査Ｂ－３グリッドに位置する。遺構の西側は調査区域外にかかる。本遺構埋没後に第１号土壙が掘り込まれている。径 1.2 mの円形で、断面形は筒形である。覆土はローム細粒を含む黒色土、黒褐色土、暗褐色土で、上層は自然堆積である。８層以下はロームブロックを大量に含み、埋め戻されていることが判明した。

遺物は、覆土中から第 12 図に示した常滑焼の大甕片、片口鉢の破片が下層から出土している。２は常滑焼の甕肩部である。外面に灰釉が多くかかる。

第22図　第１号井戸跡出土遺物



SE1
1　黒色土　　ローム粒子（径１～２mm）・ロームブロック（径３cm）含む　しまりややあり　粘性なし
2　黒褐色土　極めて微細なローム粒子・黒色の砂（径１mm前後）多量　しまりあり　粘性なし
3　黒褐色土　ローム粒子（径１～２mm）多量　灰褐色粘土ブロック含む　しまりあり
4　黒色土　　ロームブロック（径２～３cm）・ローム粒子（径１～２mm）含む　焼土粒子微量　しまりあり
5　黒褐色土　極めて微細なローム粒子多量　しまりあり
6　黒色土　　４層と同様だがローム粒子・ブロックはハードローム起源
7　黒褐色土　極めて微細なローム粒子多量　乾燥した灰褐色粘土ブロック多量　しまりあり
8　暗褐色土　ハードロームブロック（径３cm前後）多量　しまりややあり　この層から粘性が出てくる
9　黒褐色土　ロームブロック（径３cm）多量　炭化物を含む　粘性ややあり
10　黒褐色土　酸化鉄分（木の根状）多量　炭化物含む　粘性ややあり

第23図　第１号井戸跡

第12表　第1号井戸跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	陶器	片口鉢	－	2.8	(12.4)	ＥＩＫ	10	普通	黄灰	SE1　内面釉　常滑　13Ｃ	12-5
2	陶器	甕	－	5.0	－	ＥＨＩＫ	5	良好	褐灰	SE1　常滑　13～14Ｃ	12-5

（3）溝跡

第３次調査では、近世の溝跡３条を検出した。検出位置、規模、軸方向、重複関係については第 13 表のとおりである。第１号溝跡と第２号溝跡は連続する可能性が考えられるが、間に大きな撹乱が入るため確定できない。覆土はローム土を含む暗褐色土と褐色土で自然堆積である。第２号溝跡は断面観察の状況から埋め戻しである。

遺物はいずれも小破片で、中世土器香炉、近世の瀬戸美濃系陶器碗、肥前系磁器碗、在地産土器、瓦、銭貨、鉄滓が出土している。

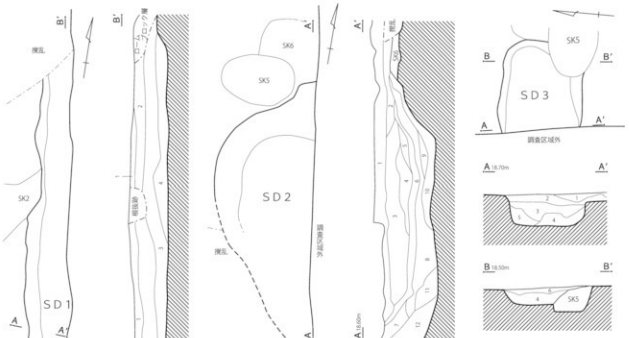
第２号溝跡（第 24 図）

第３次調査区北側のＢ－２グリッドに位置する。南西側を大きく撹乱によって壊されている。南側約８mに第１号溝跡があり、位置的には連続する可能性がある。

覆土はロームブロックを大量に含む暗褐色土と褐色土で、故意の埋め戻しである。遺物は近世の

第13表　溝跡一覧表(第24図)　　単位:m

遺構名	時期	グリッド	重複	軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	遺物	備考
1号溝	近世	B−6	SK2(新)	N−9°−W	6.02	0.45	0.2	逆台形	常滑　火鉢　鉄滓 陶磁器　焙烙　雁音銭	
						0.75	0.43			
2号溝	近世	B−5		N−8°−W	4.15	0.36	0.75	逆台形	陶磁器　かわらけ 銭貨	
						1.56	0.77			
3号溝	近世	A·B−5	SK5(旧)　SK6	N−85°−E	1.40	1.24	0.19	箱形		
						1.34	0.37			



SD1
1　暗褐色土　ロームブロック・焼土ブロック・炭を含む
2　暗褐色土　ロームブロック(径0.5～1m)少量　炭化物を全体にまばらに含む　しまりあり
3　暗褐色土　ローム粒子(径0.5m)含む　しまりあり
4　暗褐色土　ローム粒子(径0.5m)をまばらに含む　3層より明度落ちる　しまりを欠く

SD2
1　暗褐色土　ローム粒子少量　しまりあり
2　褐色土　黒色ブロック(径2～3cm)含む　ローム土を主体とする
3　暗褐色土　炭化物少量　ローム主体で黒色土を含む　しまり強い
4　暗褐色土　ロームブロック(径2～3cm大)多量　しまり強い
5　黒褐色土　ローム粒子(径1cm以下)中量
6　暗褐色土　ロームブロック(径2～3cm大)中量　ローム粒子(径1cm以下)多量
7　暗褐色土　ローム土を主体に黒色土粒子を多量　しまり強い
8　暗褐色土　ロームブロック(径5cm大)多量
9　暗褐色土　ロームブロック(径2cm大)中量　ボソボソする
10　暗褐色土　ローム土体に黒色土を含む
11　暗褐色土　10層に近い　ローム土体に黒色土を含む
12　暗褐色土　ローム粒子中量

SD3
1　褐色土　ローム粒子(径0.5～1m)微量
2　褐色土　ローム粒子(径0.5～1m)微量　ロームブロック(2～3m)まばら
3　暗褐色土　ロームブロック(径3～5m)少量
4　褐色土　ロームブロック(径5～8m)含む　しまりやや欠く
5　褐色土　ロームブロック(径8～10m)まばら　しまりやや欠く
6　暗褐褐色土　ロームブロック(径8～10m)と褐色土の混合層

第24図　溝跡

第14表　第1号溝跡出土遺物観察表(第25図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	−	2.5	(3.3)	ＩＫ	40	普通	灰白	SD1　施釉　瀬戸美濃	
2	中世土器	香炉	(20.0)	4.0	−	ＣＨＩＫ	5	普通	粗	SD1 体部外面に花文のスタンプ 15～16C	12-5

瀬戸美濃系陶器碗、肥前系磁器碗、瓦、銭貨が出土している。

溝跡出土遺物（第25図）

1は瀬戸美濃の碗である。2は土師質の香炉である。胴部に花文のスタンプが押印されている。

第25図　第1号溝跡出土遺物

（4）ピット

ピットの大部分はC区に分布している。これらの位置、規模、重複関係については第15表に示した。いずれも出土遺物がなく、所属時期は確定できないが、土壙、溝跡同様の暗褐色覆土で、近世の遺構と考えられる。間隔、深度等に規則性は窺えないことから、建物跡や柵列の柱穴ではないと考えられる。

第15表　ピット一覧表

グリッド	番号	長径	短径	深さ	備考
B-3	P1	0.34	0.32	0.26	SK1
	P2	0.42	0.37	0.31	
	P3	0.33	0.29	0.14	
	P4	0.27	0.23	0.46	SK1(旧)
B-2	P5	0.44	0.38	0.12	P8(旧)
	P6	0.24	0.23	0.28	P8•9
	P7	0.22	0.21	0.35	
	P8	0.36	0.31	0.41	P5(新) P6•9
	P9	0.24	0.18	0.19	P6•8

（5）グリッド出土の遺物（第26図）

表土掘削及び遺構確認時に、調査区全体から縄文土器、石器、近世の陶磁器、銭貨が出土した。1・3・4は瀬戸美濃系磁器である。1・4は擂絵碗である。1は外面微塵唐草。内面口縁部環菱珞文、見込み花文が施されている。3は蛇の目高台で、圏線が巡らされている。4は外面微塵唐草に大黒天、松樹、桜花を配する。内面口縁部環菱珞文が施されている。2は肥前系磁器で、内外面に文が入れられている。5は狛犬の破片である。頭部の一部のみの破片で、全体に剥落している。

第26図　グリッド出土遺物

第16表　グリッド出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	10.9	4.9	3.8	I	90	良好	白	確認面　施釉　瀬戸美濃　19C後半	11-7
2	磁器	碗	8.2	4.6	(3.3)	I	80	良好	灰白	確認面　鉄釉　肥前系　19C中葉	11-8
3	磁器	碗	7.5	3.7	3.2	I	80	普通	灰白	確認面　施釉　瀬戸美濃　19C後半	
4	磁器	碗	(12.6)	4.7	(3.7)	IK	25	良好	白	確認面　施釉　瀬戸美濃　19C後半	11-9
5	土製品	鉢犬	長さ[10.4]cm　幅[14.1]cm 高さ[11.4]cm			CIK	10	普通	灰	確認面南側　瓦質	12-1

4．宝蔵寺遺跡出土の石製品（第27図）

宝蔵寺遺跡からは縄文時代の石器、中世の板碑片、近世の砥石が出土している。

1・2・7・8は凝灰岩製の砥石である。8は硯を転用している可能性がある。1・7は被熱し、全体が赤変している。3は硯の破片である。二行以上の文字列が確認できるが、「五」が判読できるのみである。4は板碑で、二条線が認められる。5・6は縄文時代の石器である。5は磨石、6は局部磨製石斧である。5は中央部分が敲打によって凹んでいるが、使用によって平滑に磨滅している。6は部分的に自然面が残る。両側面を中心に全体に敲打痕が見られ、刃先のみを研磨している。刃先が折損した後、刃を付け直している。再生した刃は研磨されていない。

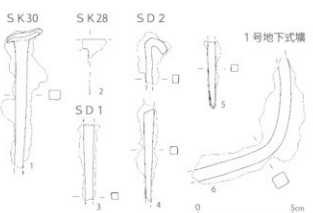
第27図　石製品

第17表　石製品観察表(第27図)

番号	器種	石材	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	図版
1	砥石	凝灰岩	[4.0]	[5.0]	2.5	70.9	1次SK5　使用面3面	
2	砥石	凝灰岩	[6.2]	2.6	2.5	56.5	2次SD2　使用面4面	
3	硯	片岩	[3.5]	[3.9]	[1.1]	14.4	2次SK1　「五」の刻あり	12-11
4	板砥	緑泥片岩	(8.0)	[6.0]	2.0	90.7	2次SK29　二条線あり	12-14
5	磨石	安山岩	(7.8)	8.0	3.6	379.2	2次第1号地下式壙	12-15
6	局部磨製石斧	砂岩	(10.9)	4.7	2.9	200.7	2次第1号地下式壙	12-16
7	砥石	凝灰岩	[8.4]	[6.0]	1.4	90.2	2次C区　使用面2面	
8	砥石	凝灰岩	[3.6]	3.5	0.7	12.8	3次SK1　使用面2面	

5．宝蔵寺遺跡出土の鉄製品（第28図）

1・4・5は釘である。1は頭部が敲打により歪んでいる。2は銅製の板状製品の破片である。窓状の切り込みが見られる。3・6は棒状製品である。6は太く、大きく曲げられている。



第28図　鉄製品

第18表　鉄製品観察表(第28図)

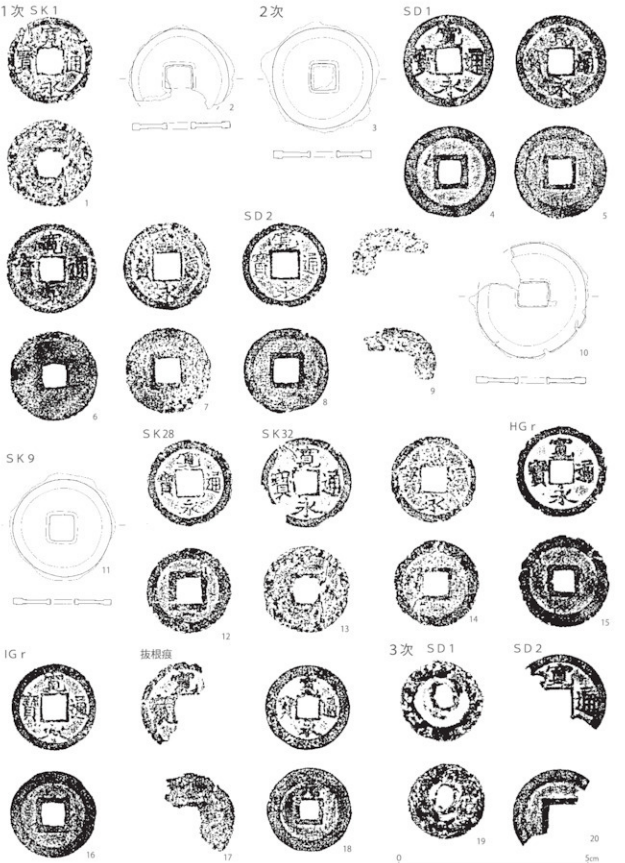
番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	備考	図版
1	釘	[7.2]	0.55	0.5	14.2	SK30　№5	
2	板状品	[1.3]	1.0	0.05	0.2	SK28　№5　銅	
3	棒状品	[4.0]	0.4	0.35	4.1	SD1　№30	
4-1	釘	[2.4]	0.3	0.4	3.3	SD2	
4-2	釘	[4.9]	0.4	0.4	4.0	SD2	
5	釘	[3.5]	0.4	0.35	1.5	SD2	
6	棒状品	[8.1]	0.6	0.75	26.8	第1号地下式壙 №7	

6．宝蔵寺遺跡出土の銭貨（第29図）

銭貨は20枚出土した。19が雛首銭である他はいずれも寛永通宝である。内訳は古寛永が7枚、新寛永が7枚、鉄一文銭が5枚である。鉄一文銭はいずれも錆により大きく膨らんでいる。

第19表　銭貨観察表(第29図)

番号	径(mm)	銭厚(mm)	重さ(g)	備考	図版
1	22.95	1.20	1.5	1次SK1　寛永通宝(古)	
2	2.60	0.20	2.0	1次表土　寛永通宝　鉄銭	
3	2.60	0.20	4.0	2次C区　寛永通宝　鉄銭	
4	24.70	1.30	3.1	2次SD1　寛永通宝(古)	
5	25.00	1.50	3.8	2次SD1　寛永通宝(古)	
6	24.10	1.20	2.1	2次SD1　寛永通宝(新)	
7	2.34	1.30	2.1	2次SD1　寛永通宝(新)	
8	22.95	1.30	2.4	2次SD2　寛永通宝(新)	
9	(17.60)	1.30	0.4	2次SD2　寛永通宝　鉄銭	
10	2.90	0.20	3.8	2次SD2　寛永通宝　鉄銭	
11	2.60	0.15	4.9	2次SK8 SK9　寛永通宝　鉄銭	
12	23.00	1.10	2.0	2次SK28　寛永通宝(新)	
13	24.15	1.20	1.6	2次SK32　寛永通宝(古)	
14	23.35	1.30	1.6	2次SK32　寛永通宝(新)	
15	24.40	1.30	3.1	2次H-3G　寛永通宝(古)	
16	23.10	1.20	2.4	2次I-3G　寛永通宝(新)	
17	(22.55)	1.40	0.8	2次抜根痕　寛永通宝(古)	
18	22.90	1.80	3.3	2次背元　寛永通宝(新3期)	
19	20.50	2.20	2.7	3次SD1　雛首銭	12-12
20	(21.60)	1.20	1.3	3次SD2　寛永通宝(古)	



第29図　銭貨

Ⅴ　新井宿上一斗蒔遺跡の遺構と遺物

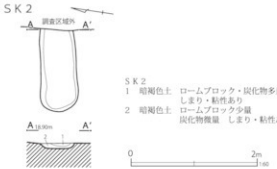
1．第１次調査の遺構と遺物

第１次調査では、中世末から近世初頭の溝跡１条、近世から近代の土壙１基、地下式壙１基、ピット 16 基を検出した。

（1）土壙

第２号土壙（第 30 図）

第１次調査B区北側のC－３グリッドに位置する。隅丸長方形で、長軸の方位はN－９°－Wである。規模は長軸 1.27 m、短軸 0.52 m、深さ 0.11 mである。覆土はローム土、炭化物を含む暗褐色土で、自然堆積である。遺物は出土していないが、土壙の形態や覆土が周辺の近世の遺構と同様であることから、近世の遺構と判断した。



第30図　第２号土壙

（2）地下式壙

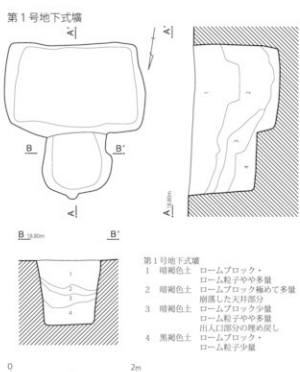
第１次調査では、近世の地下式壙１基を検出した。調査時は土壙としたが、形態から地下式壙と判断した。

第１号地下式壙（第 31 図）

第１次調査C区南側のC－８グリッドに位置する。北側に入口部が取り付いており、全体の平面形はT字形を呈する。入口部から地下室方向を主軸方位とするとS－９°－Eになる。規模は主軸方向 2.41 m、幅 2.20 mである。入口部の深さは 1.00 mで、段を持って地下室に至る。地下室の深さは 1.37 mである。

入口部は北側に取り付き、主軸方位はほぼ南北方向である。長さ 1.01 m、幅は調査区内で 1.10 m、壁は垂直に立ち上がり、床面もほぼ平坦である。

地下室は幅 2.20 m、奥行 1.40 mの長方形である。覆土は中位にロームブロックを主体とする厚い層（２層）があり、天井を落としたものと考えられる。１層は天井を落とした上の堆積土、３層は入口部の埋め戻し土、４層は開口部からの流れ込みである。



第31図　第１号地下式壙

遺物は縄文土器片のみで、遺構の時期を示すものは出土していない。

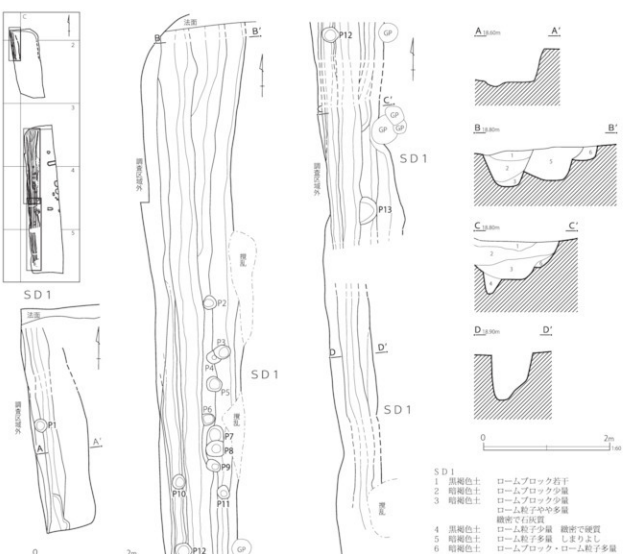
（3）溝跡

第１号溝跡（第 32・33 図）

第１次調査Ａ・Ｂ区西側のＢ－１・２、Ｃ－３～５グリッドに位置する。検出できた長さは 37.42 ｍである。全体の幅は 1.50 ～ 1.80 ｍあるが、断面観察から同じ位置に幅 0.5 ～ 0.8 ｍの南北方向の溝を３回掘削したことが想定できる。掘削は東側から西側へと推移し、東側の２条分は埋め戻されている。各々の断面形は逆台形である。

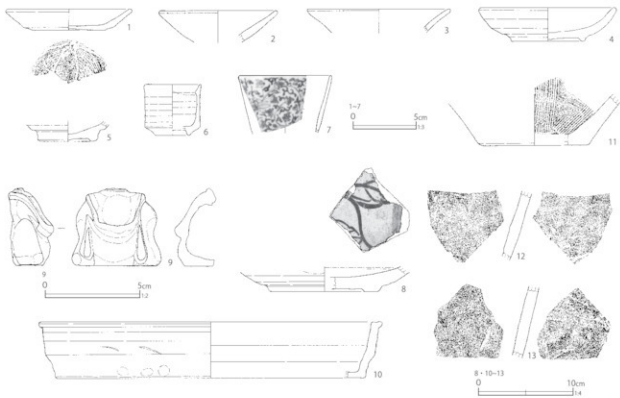
覆土はロームブロックを含む暗褐色土と黒褐色土で、３～６層は硬くしまっている。自然堆積と考えられるが、下層はブロックが多いので、故意の埋め戻しと思われる。遺物は中世～近世のかわらけ、常滑焼甕、瀬戸美濃系陶器碗、肥前系磁器碗、在地産土器、土人形、煙管、釘が出土している。

第33図１～３はロクロ成形のかわらけである。２は底径が小さく東関東系、３は外反気味に開くもので 16 世紀代と考えられる。４は瀬戸美濃の灰釉丸皿である。釉薬のムラが大きい。５・６は瀬戸美濃大窯期のものである。５は鉄釉天目碗である。６は香炉の可能性がある。７は肥前系磁器の猪口で、草花文が描かれている。８は所謂志野織部の長石釉草花文鉄絵大皿である。９は土人形の背中側である。10 は所謂平底瓦質焙烙である。



第32図　第１号溝跡

11は瀬戸美濃灰器の錆釉擂鉢である。12・13は常滑焼の甕である。



第33図　第１号溝跡出土遺物

第20表　第１号溝跡出土遺物観察表(第33図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	かわらけ	皿	(9.6)	1.7	(5.8)	ＨＩＫ	30	普通	橙	SD1　底部回転糸切り　18～19Ｃ	11-10
2	かわらけ	皿	(9.1)	2.5	－	ＣＨＩＫ	20	普通	にぶい黄橙	SD1　15～16Ｃ	12-6
3	かわらけ	皿	(11.2)	1.9	－	ＩＫ	20	普通	褐灰	SD1　16Ｃ	12-6
4	陶器	皿	(10.4)	2.7	5.8	ＩＫ	50	良好	灰黄	SD1　灰釉　瀬戸美濃　大窯２～３段階　16Ｃ前～中	11-11
5	陶器	天目碗	－	1.6	4.4	Ｉ	90	良好	灰白	SD1　鉄釉　瀬戸美濃　大窯期　16Ｃ	12-6
6	陶器	坏	(4.4)	4.1	(2.6)	Ｋ	30	良好	灰白	SD1　灰釉　瀬戸美濃	11-12
7	陶器	猪口	(7.2)	4.5	－	Ｋ	20	良好	灰白	SD1　染付　肥前　18Ｃ前半	12-6
8	陶器	皿	－	2.6	(11.6)	ＩＫ	10	良好	灰白	SD1　内面長石釉　銅釉　鉄絵	12-6
9	土製品	土人形	高さ(4.1)cm	幅4.8cm		ＨＩＫ	40	普通	明赤褐	SD1	11-13
10	瓦質土器	焙烙	(35.8)	6.0	(32.2)	ＣＩＫ	5	普通	褐灰	SD1　内外面煤付着　17Ｃ後～19Ｃ	
11	陶器	擂鉢	－	5.3	(12.0)	Ｋ	10	良好	灰白	SD1　鉄釉　瀬戸美濃　16Ｃ～17Ｃ前	12-6
12	陶器	甕	－	7.3	－	ＩＫ	5	良好	灰黄褐	SD1　常滑　中世	12-6
13	陶器	甕	－	7.6	－	ＩＪＫ	5	良好	にぶい褐	SD1　常滑　中世	12-6

(4) ピット

調査区全体からピットを16基を検出した。大部分がB区の第１号溝跡周辺に分布している。これらの位置、規模については第21表に示した。いずれも出土遺物がなく、所属時期は確定できないが、土壙や溝跡同様の暗褐色覆土であることから、いずれも近世の遺構と認められる。

Ｃ－７グリッドＰ１～４は、調査時に掘立柱建物跡としていたが、柱穴間の間隔、深度等に規則性を欠いており、建物跡ではないと判断した。

第21表　ピット一覧表

グリッド	番号	長径	短径	深さ	備考
C-3	P1	0.48	0.44	0.07	
C-4	P1	1.08	0.51	0.08	
	P2	0.86	0.48	0.07	
	P3	0.51	0.26	0.06	
	P4	0.21	0.17	0.04	
	P5	0.30	0.23	0.07	
C-4	P6	0.78	0.42	0.27	
	P7	0.45	0.27	0.54	
	P8	0.40	0.40	0.57	
	P9	0.60	0.55	0.16	
	P10	0.41	0.33	0.35	
	P11	0.32	0.28	0.26	
C-7	P1	0.51	0.45	0.11	SB1の1号から変更
	P2	0.54	0.50	0.08	SB1の2号から変更
	P3	0.63	0.50	0.07	SB1の3号から変更
	P4	0.55	0.48	0.10	SB1の4号から変更

(5) グリッド出土の遺物

1はロクロ成形のかわらけである。端部に煤が付着する。

第34図　グリッド出土遺物

第22表　グリッド出土遺物観察表(第34図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	かわらけ	Ⅲ	(8.3)	1.6	(5.1)	ＥＩＫ	20	普通	にぶい橙	摸乱　底部回転糸切り　18～19C	

2．第2次調査の遺構と遺物

第2次調査では、近世の土壙8基、溝跡6条、性格不明遺構1基、ピット9基を検出した。

(1) 土壙

第2次調査では近世の土壙8基を検出した。いずれもB区に分布しており、大きく第7号、第2・3・5号、第1号、第4・6・8号の四箇所に分かれる。他の遺構との新旧関係は、第8号土壙→第6号溝跡→第2号溝跡→第6・7号土壙の順、土壙同士では第5号→第3号の順である。

平面形は円形、楕円形、正方形、長方形である。長軸方向は第1・2号が北東、北西方向だが、その他はほぼ南北、東西方向に揃っている。規模は長軸で0.52～1.54ｍと大小があり、0.8～0.9ｍ程度のものがやや多い。深さは0.30～0.73ｍで、0.5ｍ以下と0.7～0.8ｍのものに二分される。覆土はローム土を含む暗褐色土、黒褐色土、黒色土、褐色土、暗灰色土で、第1～3号は自然堆積、第4～6号は柱痕と柱掘り方が観察されていることから、ともに柱穴と考えられる。遺物は近世陶磁器、瓦等が出土している。検出位置、規模、長軸方向、重複関係については第23表に示した。

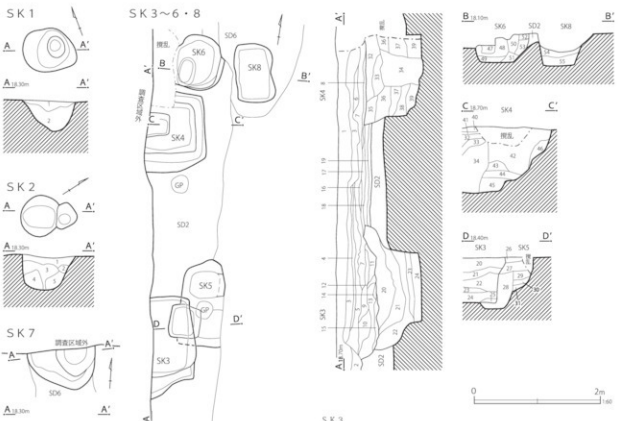
このうち、第3～6・8号土壙は規模が大きく、遺構の掘り込み面の上に版築状の盛土が認められた。一連の遺構と考えられるため、まとめて概略を述べる。

第3・5号土壙（第35図）

第2次調査B区のC－3グリッドに位置する。いずれも長軸1.3ｍを超え、深さは0.7～0.8ｍ

第23表　土壙一覧表(第35図)　　単位：m

遺構名	時期	グリッド	重複	長軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	平面形	遺物	備考
1号土壙	近世	C－2･3		N－43°－W	0.87	0.69	0.48	漏斗形	楕円形		
2号土壙	近世	C－3		N－32°－E	0.89	0.64	0.57	鍋底形	不整楕円形	陶磁器　摺鉢	
3号土壙	近世	C－3	SD2･SK5(旧)	N－6°－W	1.54	0.67	0.73	逆台形	不整長方形		
4号土壙	近世	C－2	SD2	N－3°－W	1.26	0.92	0.71	逆台形	方形	摺鉢	
5号土壙	近世	C－3	SK3(新)　SD2	N－3°－W	1.34	0.65	0.54	鍋底形	方形		柱の部分は一辺0.52ｍの方形
6号土壙	近世	C－2	SD2･6(旧)	N－3°－W	0.86	0.80	0.40	逆台形	円形	銭瓦か？	
7号土壙	近世	C－2	SD6(旧)	N－82°－E	1.06	0.63	0.30	皿形	楕円形	陶磁器	
8号土壙	近世	C－2	SD6(新)	N－13°－W	0.93	0.58	0.50	箱形	隅丸長方形		



SK1
1　暗褐色土　微小なローム粒子多量　しまり弱い
2　暗褐色土　微小なローム粒子・ロームブロック（2～3cm）含む　しまり弱い

SK2
1　暗褐色土　ロームブロック（5mm 大）含む　しまり強い
2　暗褐色土　ロームブロック（1cm 大）多量
3　黒褐色土　ロームブロック（1cm 大）少量　ボソボソする
　　しまり強い
4　暗褐色土　ロームブロック（1cm 大）多量
5　暗褐色土　ロームブロック（3cm 以下）多量　しまる

SK7
1　暗褐色土　ロームブロック（5mm 大）多量　粘性あり

SK3～6・8
1　表土　　ロームを 5cm 程部分的に入れた後に砂利敷き、
　　強くしまる
2　暗褐色土　ロームブロック（1cm 大）少量　砂利（1cm 大）をまばらに含む
3　暗灰色土　炭化物（5mm 大）少量　微細な焼土粒子含む
　　砂利（2～3mm）少量　しまりあり
4　褐色土　　微細なローム粒子多量　炭化物（5mm 大）少量　しまりあり
5　暗灰褐色土　炭化物粒子（5mm 以下）少量　しまりあり
6　暗灰色土　ローム粒子・白色砂粒少量　しまりあり
7　褐色土　　ロームブロック（1～3cm 大）多量　炭化物（5mm 以下）少量
　　小礫（1cm）少量　しまりやや弱い　粘性あり
8　暗灰色土　ローム粒子・小礫少量　しまりやや弱い　粘性あり
9　暗褐色土　ロームブロック（5mm 大）多量　黒色土少量　しまりやや弱い
　　粘性あり
10　暗褐色土　ロームブロック（5mm 大）・黒色土少量　しまりやや弱い
　　粘性あり
11　暗褐色土　ロームブロック（2cm）少量　しまりやや弱い　粘性あり
12　褐色土　　ロームブロック（2～3cm）多量　しまりやや弱い　粘性あり
13　暗褐色土　ロームブロック（5mm 大）少量　しまりやや弱い　粘性あり
14　暗褐色土　ロームブロック含む　しまりやや弱い　粘性あり
15　褐色土　　ロームブロック（2～3cm）多量　しまりやや弱い　粘性あり
16　暗褐色土　微細なローム粒子含む　しまり強い
17　暗灰褐色土　炭化物（5mm 大）・黒色土・小礫少量　しまり強い
18　暗褐色土　ローム粒子（5mm 以下）含む　しまり強い
19　灰白色土　しまり強い

SK3
20　暗褐色土　ロームブロック（1cm 以下）・ローム粒子含む
　　硬化した黒色土ブロック（2～3cm）少量
21　暗褐色土　ローム粒子（5mm 以下）少量
22　暗褐色土　ロームブロック（1cm 以下）・ローム粒子含む
23　暗褐色土　ロームブロック（2cm 大）含む　しまり強い
24　暗褐色土　ロームブロック（1cm 以下）・ローム粒子含む　しまり強い
25　褐色土　　ローム土を多量　しまり強い

SK5
26　褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量　パサパサしている　しまりあり
27　黒褐色土　黒色土多量　しまり強い
28　黒色土　　ローム粒子少量　しまりあり
29　暗褐色土　ロームブロック（1cm 大）多量　しまりあり
30　黒褐色土　微小ローム粒子少量　黒色土含む　しまり弱い
31　暗褐色土　ロームブロック（1cm 大）多量　しまり弱い

SK4
32　暗褐色土　ローム粒子（5mm 大）多量　しまり弱い
33　暗褐色土　ローム粒子（5mm 以下）少量　しまり弱い
34　黒褐色土　ローム粒子（5mm 大）少量　しまり弱い
35　暗褐色土　ロームブロック（2cm 大）含む　しまりあり
36　暗褐色土　ロームブロック（1～2cm）多量　しまりあり
37　暗褐色土　ロームブロック（1cm 大）　少量　しまりあり
38　暗褐色土　ロームブロック（1cm 大）多量　しまりあり
39　暗褐色土　ローム粒子（5mm 大）少量　　しまりあり
40　褐色土　　ロームブロック（1～3cm 大）多量　炭化物（5mm 以下）少量
　　小礫（1cm）少量　しまりやや弱い　粘性あり
41　暗灰色土　ローム粒子・小礫少量　しまりやや弱い　粘性
42　暗褐色土　ロームブロック（1～2cm 大）極めて多量
43　暗褐色土　ローム粒子（5mm 大）多量　しまり強い
44　暗褐色　　ロームブロック（1cm 大）多量　しまり強い
45　褐色土　　ロームを主体とし黒色土含む　しまり強い
46　褐色土　　ロームを主体とし黒色土少量　しまり強い

SK6
47　黒褐色土　微細なローム粒子少量　しまり弱い　粘性あり
48　暗褐色土　ロームブロック（1～2cm 大）多量　しまり極めて強い
49　黒褐色土　ロームブロック（5mm 大）含む　しまりあり　粘性あり
50　黒褐色土　ローム粒子少量　しまりあり　粘性あり
51　黒褐色土　微細なローム粒子微量　しまりあり　粘性あり
52　暗褐色土　ローム粒子少量　しまりあり　粘性あり
53　暗褐色土　ロームブロック（5mm 大）少量　しまりあり　粘性あり

SK8
54　黒褐色土　ロームブロック（5mm 大）含む　焼土粒子微量　しまり弱い
55　暗褐色土　ローム粒子少量　しまり強い

第35図　土壙

で規模が大きい。第５号土壙を壊して第３号土壙がつくられている。第５号土壙は大きな掘り込みの中に柱痕もしくは柱抜き取り痕と考えられる28層が認められる。第３号土壙と第５号土壙の層理面は硬化しており、25層は貼り込んだ可能性がある。第３号土壙には柱痕は認められず、覆土は自然堆積と考えられる。性格は不明である。

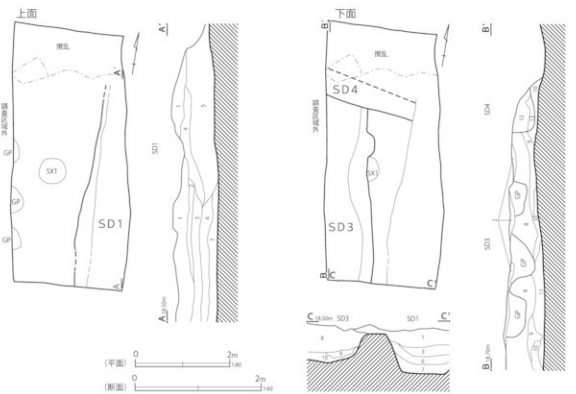
第４・６・８号土壙（第35図）

第２次調査B区のC－２グリッドに位置する。

規模は第６・８号土壙が長軸 0.8 ～ 0.9 m、第４号土壙が 1.26 mと大型である。深さは前者が 0.4 ～ 0.5 mである。第４号土壙は第34層が柱痕もしくは柱抜き取り痕、36 ～ 39、42 ～ 46層が掘り方充填土、32・33・40・41層が柱抜去後の自然堆積層である。第６号土壙は47層が柱痕もしくは柱抜き取り痕である。第８号土壙は第６号土壙との直接の新旧関係は不明ながら、位置を変えて建て替えた柱穴と考えられる。

（2）溝跡

第２次調査では、近世の溝跡６条を検出した。溝跡の軸方向は南北方向を基本とし、第４号溝跡はそれに直交する。検出位置、規模、軸方向、重複関係については第24表に示した。このうち、第１号溝跡は、第１号性格不明遺構確認面で検出され、第３号溝跡はそれを掘り下げた面から検出されている。



SD1
1　暗褐色土　ロームブロック（5 ～ 10cm 未風化）・ローム粒子（径１～ 5mm）・炭化物多量　しまりあり
2　黒色土　炭化物層　ロームブロック・ローム粒子多量
3　暗褐色土　ロームブロック（3cm 前後）・ローム粒子（径２～ 3mm 未風化）多量　炭化物含む
4　黒褐色土　ローム粒子（径１～ 5mm）多量　しまり・粘性ややあり
5　黒褐色土　ロームブロック（3cm 前後）・ローム粒子（径１～ 2mm 未風化）多量　炭化物含む　しまりややあり
6　褐色土　ローム粒子（径２～ 5mm）多量　しまりなし
7　黒褐色土　ローム粒子（径 1mm 前後）多量　しまりあり

SD3
8　暗褐色土　ロームブロック（2 ～ 3cm）少量　ローム粒子（径１～ 3mm 未風化）多量　しまりややあり　粘性あり
9　黒褐色土　ロームブロック（2 ～ 3cm 未風化）・ローム粒子（径 3mm 前後）多量　しまりややあり　粘性あり
10　黄褐色土　ロームブロック（3cm 前後）多量　炭化物含む　しまりややあり　粘性あり
11　黄褐色土　ロームブロック（3cm 前後）・ローム粒子（径２～ 3mm）多量　しまりややあり　粘性あり

SD4
12　黄褐色土　ロームブロック（10cm 前後）多量　しまりあり
13　黒褐色土　ローム粒子（径１～ 2mm）多量　しまりあり

第36図　第１・３・４号溝跡

第１号溝跡（第36図）

第２次調査C区南側のC－３・４グリッドに位置する。西側約１ｍに第３号溝跡が平行しているが、第３号溝跡埋没後に第１号性格不明遺構やグリッドピット１～３を検出した面から掘り込まれており、同時期の併存ではない。

覆土はロームブロックを含む褐色土、暗褐色土、黒褐色土、黒色土である。ロームブロックが多く埋め戻しの可能性がある。遺物は近世の陶磁器、緑泥片岩の板碑片、瓦が出土している。

第３号溝跡（第36図）

第２次調査C区南側のC－３・４グリッドに位置する。東側約１ｍに第１号溝跡が平行している。検出状況については前述した。

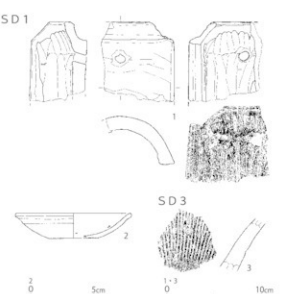
覆土はロームブロックを含む暗褐色土、黒褐色土である。下層はロームブロックが多く、埋め戻しの可能性がある。遺物は丹波系の擂鉢、近世の在地産土器の小破片が出土している。

第24表　溝跡一覧表(第36･38図)　　単位:m

遺構名	時期	グリッド	重複	軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	遺物	備考
１号溝	近世	C－3･4	SD3(旧)　SD4	N－7°－W	4.72	0.48	0.30	逆台形	陶磁器　灯明皿 板碑片　丸瓦	
						1.11	0.64			
２号溝	近世	C－2･3	SD6(旧)　SK3･4･6(新)　SK5	N－8°－W	13.76	0.31	0.03	皿形	かわらけ　陶器	
						1.33	0.29			
３号溝	近世	C－3･4	SX1･SD1･4(新)	N－8°－W	4.68	0.86	0.30	逆台形	陶器擂鉢　焙烙	
						1.02	0.58			
４号溝	近世	C－3･4	SD3(旧)　SD1	N－82°－W	1.95	0.68	0.20	箱形		
							0.25			
５号溝	近世	C－1		N－13°－W		2.40	0.10	0.09	皿形	
						2.20	0.28	0.26		
６号溝	近世	C－2	SD2(新)　SK7(新)　SK8(旧)	N－10°－W	5.38	0.93	0.19	逆台形	焙烙	
						1.60	0.42			

溝跡出土遺物（第37図）

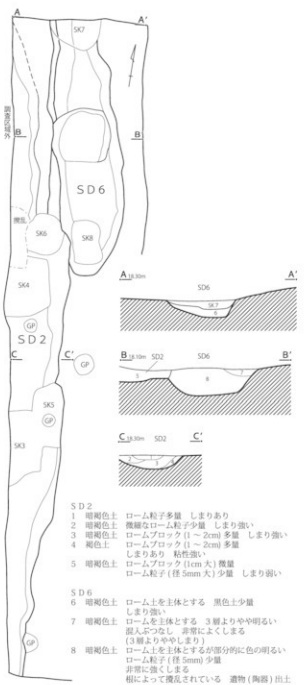
１は丸瓦である。玉縁付丸瓦で、焼成前に釘穴が設けられている。狭端面、側端面の一部が遺存している。端面はヘラ調整である。凸面は丁寧なナデ調整、凹面にはヘラケズリ状の調整が見られる。外面煤付着。２は京都信楽系の灰釉灯明皿である。内面から口縁にかけて灰釉がかかり、貫入が入る。内面に櫛目が見られる。３は丹波系の擂鉢である。裏面に煤が付着している。

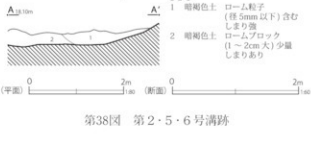


第37図　溝跡出土遺物

第25表　溝跡出土遺物観察表(第37図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	瓦	丸瓦	長さ(8.4)cm　幅7.8)cm　厚さ1.5cm　高さ5.1cm						灰黄	SD1	12-7
2	陶器	灯明皿	(9.0)	2.0	(3.8)	K	25	良好	灰白	SD1 灰釉 貫入 京都信楽系 18C後～19C前半	12-7
3	陶器	擂鉢	－	5.6	－	EHIK	5	普通	にぶい橙	SD3 丹波 17C	12-7





第38図　第２・５・６号溝跡

(3) 性格不明遺構

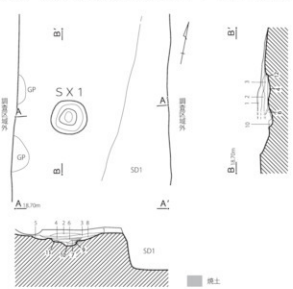
第２次調査では性格不明遺構１基を検出した。

第１号性格不明遺構（第39図）

第２次調査C区中央のC－４グリッドに位置する。第１号溝跡やグリッドピット１～３と同一の面で検出した。炉跡状で、平面形は円形、断面形は皿形である。規模は径0.60 m、深さ0.20 mで、底面は凹凸があり、一部焼土化している。覆土は炭化物と焼土を多く含み、灰層と焼土の単位が２単位（６・７、９・10・11層）認められる。最下層（12層）は灰白色粘土の層で、構築当初は火皿状に火床を整えていた可能性がある。

遺物は、近世～近代の肥前系磁器、瀬戸美濃系陶器、焙烙、箱形七輪、瓦が出土している。

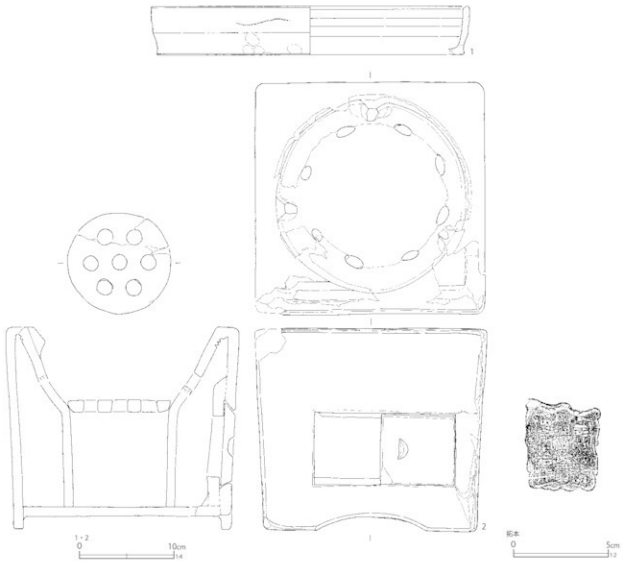
１は所謂平底瓦質焙烙である。外面に煤が厚く付着する。２は板組み作りの箱形七輪である。硬質土師質である。下半の空気穴は引戸になっており、戸を閉めた部分には「□□□□□□治作」



SX1
1 黒色土　炭化物多量　砂質　しまりあり　粘性なし
2 黒色土　炭化物と焼土の混層　しまりあり
3 褐色土　ロームブロックを含む　しまりあり　粘性ややあり
4 黒色土　炭化物層　しまりなし
5 褐色土　ロームブロック含む　粘性ややあり
6 灰白色土　灰層　焼土粒子含む粘性あり
7 赤褐色土　焼土層　炭化物含む　粘性ややあり
8 暗褐色土　焼土粒子・炭化物含む　しまりややあり
9 灰白色　灰層　焼土粒子含む　粘性ややあり
10 明赤褐色土　焼土層　灰・炭化物多量　しまりややあり
11 赤褐色土　ローム焼土化　赤化
12 灰褐色土　灰白色粘土ブロック・炭化物多量　粘性ややあり

第39図　第１号不明遺構

の刻印が施されている。扉には半円状の切り込みが設けられている。火皿は深く、上半部に煤が付着する。胎土には金雲母を多く含む。



第40図　第１号不明遺構出土遺物

第26表　第1号不明遺構出土遺物観察表(第40図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	瓦質土器	焙烙	(33.6)	5.1	(32.6)	ＨＩＫ	5	普通	灰黄褐	SX1	12-7
2	土製品	七輪	口径24.4cm 高さ21.6cm 底部辺(23.0)cm 鍔受径20.0cm			ＡＥＨＩＫ	20	普通	明赤褐	SX1 箱形七輪 刻印あり 板組造り成形	12-2

(4) ピット

調査区全体からピットを９基検出した。大部分がB区に分布している。これらの位置、規模、重複関係については第27表に示した。いずれも出土遺物がなく、所属時期は確定できないが、土壙、溝跡同様の暗褐色の覆土から、近世と判断した。

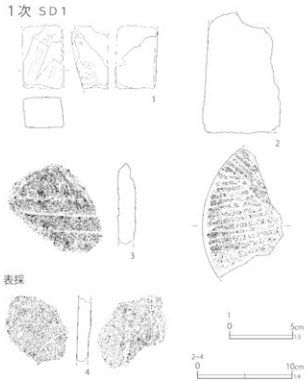
第27表　ピット一覧表

グリッド	番号	長径	短径	深さ	備考
C-2	P7	0.30	0.28	0.12	SD2(新)
C-3	P1	0.46	0.43	0.22	
	P4	0.26	0.25	0.46	
	P5	0.30	0.28	0.15	
	P6	0.28	0.27	0.30	SK5(新) SD2
	P8	0.41	0.28	0.25	SD2
C-4	P1	0.55	0.16	0.32	SD3
	P2	0.56	0.28	0.40	SD3
	P3	0.50	0.12	0.29	SD3

3．新井宿上一斗蒔遺跡出土の石製品（第41図）

今回の調査では、第１次調査第１号溝跡と遺構確認時に、中世の板碑片、近世の石臼、砥石が出土している。

１は凝灰岩製の砥石である。全体が被熱し、暗褐色を呈している。側面には櫛状の工具痕が見られる。２は安山岩製の石臼で、上臼の破片である。３・４は緑泥片岩製の板碑の破片である。いずれも摩耗が進んでいる。３は二条線と枠線が残り、二条線の掘り込みが浅いことから、15世紀代の可能性がある。４は二条線と枠線、月輪が残り、いずれも彫りが細く、浅い。



第41図　石製品

第28表　石製品観察表（第41図）

番号	器種	石材	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考	図版
1	砥石	凝灰岩	[5.1]	3.4	2.9	67.70	1次SD1	
2	石臼	安山岩	[12.9]	(8.2)	径20.2	1211.20	1次SD1	
3	板碑	緑泥片岩	9.4	10.2	1.8	124.80	1次SD1　二条線　枠線	
4	板碑	緑泥片岩	[6.5]	[6.5]	[1.3]	240.50	2次北半部南側　二条線　月輪	12-7

4．新井宿上一斗蒔遺跡出土の鉄製品（第42図）

今回の調査では、第１次第１号溝跡、第２次第１号溝跡、第２次遺構確認時に煙管が出土している。１・２は雁首である。１は一部に金属光沢が残る。２は肩のある形態で、補強帯が施されている。中に羅宇が残る。３は吸口で両端を欠き、口付部分は折れて潰れている。中に羅宇が残る。

第42図　鉄製品

第29表　鉄製品観察表（第42図）

番号	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重さ（g）	備考	図版
1	煙管	5.0	火皿径1.1cm		6.5	2次SD1　雁首　羅宇残る	12-17
2	煙管	[2.3]	1.1	0.05	2.0	1次SD1　雁首　羅宇残る	12-17
3	煙管	[7.9]	小口径(0.9)cm		4.8	2次北半部南側　吸口　羅宇残る	12-17

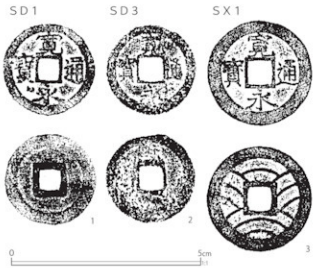
5．新井宿上一斗蒔遺跡出土の銭貨（第43図）

今回の調査では、第２次第１号溝跡、第３号溝跡、性格不明遺構から各１枚、計３枚の寛永通宝が出土した。

１は古寛永、２・３は新寛永である。３は明和期の真鍮製の波銭である。やや赤みを帯び、文政期の可能性がある。

第30表　銭貨観察表（第43図）

番号	径（mm）	銭厚（mm）	重さ（g）	備考	図版
1	25.10	1.20	3.1	２次SD1　寛永通宝（古）	
2	24.00	1.20	2.1	２次SD3　寛永通宝（新）	
3	28.12	1.20	4.3	２次SX1　寛永通宝（新）	12-13



第43図　銭貨

Ⅵ　東町裏遺跡の遺構と遺物

１．２次調査の遺構と遺物

東町裏遺跡第２次調査では、近世の土壙５基、地下式壙７基、溝跡４条、ピット１基を検出した。

（１）土壙

土壙はすべて北調査区で検出した。全て近世に帰属する。いずれも一部が調査区域外に延びているため、全体の規模や形状は明らかとしえなかった。第１・２号土壙は溝跡と重複しているが、溝跡の方が新しい。

平面形は円形、楕円形、長方形である。長軸方向は北東－南西、北西－南東方向である。規模はいずれも調査区域外にかかるため、調査範囲内での規模である。長軸は1.16～2.98ｍと大型だが、中でも第５号土壙は最大である。深さは0.14～0.44ｍで、第１号を除き、0.15～0.25ｍである。覆土はローム土を含む暗褐色土、黒褐色土で、第１～３・５号は自然堆積、第４号はロームブロックを多量に含むことから、故意の埋め戻しと判断される。

遺物は近世の瀬戸美濃系陶器、肥前系磁器、焙烙、瓦等が出土している。

検出位置、規模、長軸方向、重複関係については第31表に示した。

このうち第１号土壙は深く、遺物も多いため概略を述べる。

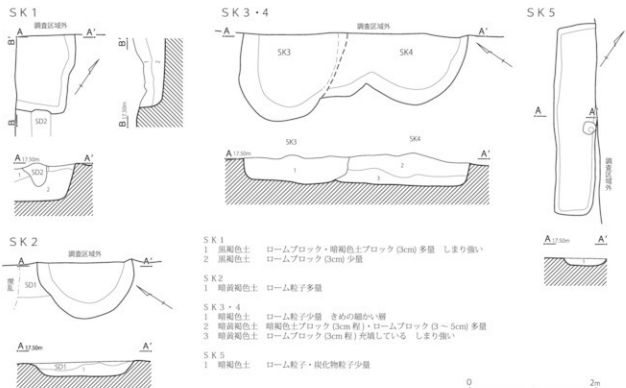
第１号土壙（第44・45図）

北調査区北東側隅のＡ－０・１グリッドに位置する。調査区内の平面形は方形で、長軸の方位はＮ－35°－Ｗである。覆土の上層はローム土や暗褐色土ブロックを多く含む黒褐色土で、故意の埋め戻し、下層はロームブロックを含む黒褐色土で自然堆積である。

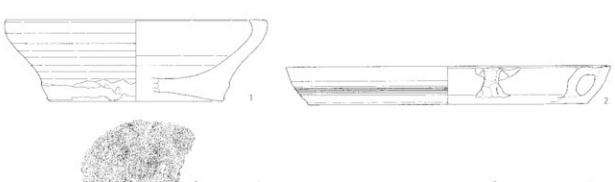
遺物は瀬戸美濃系陶器鉢、碗、在地産土器、瓦が出土している。１は産地不明の陶器の鉢である。暗褐色を呈し、多孔質だが硬質で焼き締められている。底面は回転糸切りである。２は所謂平底瓦質焙烙である。外面の体部中位にカキ目状の条線が巡らされている。

第31表　土壙一覧表(第44図)

遺構名	時期	グリッド	重複	長軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	平面形	遺物	備考
1号土壙	近世	A－0･1	SD2	N－35°－W	1.16	0.92	0.44	逆台形	長方形	瀬戸美濃皿　碗 肥前系磁器碗 焙烙　平瓦	
2号土壙	近世	B･C－1	SD1(新)	N－34°－E	1.34	0.87	0.16	皿形	円形		
3号土壙	近世	B･C－2	SK4(旧)	N－22°－W	1.64	1.41	0.20	鍋底形	楕円形	近世陶器	
4号土壙	近世	C－2･3	SK3(新)	N－34°－W	2.26	1.11	0.23	鍋底形	不整形	京都信楽系陶器 碗　瀬戸美濃陶器　肥前系磁器 碗	
5号土壙	近世	E－5･6 F－6		N－32°－W	2.98	0.68	0.14	皿形	長方形	肥前系磁器碗	



第44図　土壙



第45図　第1号土壙出土遺物

第32表　第１号土壙土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	陶器	鉢	(20.5)	6.5	(14.0)	ＥＨＩＫ	20	普通	灰褐		11-14
2	瓦質土器	焙烙	(34.6)	4.0	(30.0)	ＨＩ	30	良好	黒	18～19C	

（2）地下式壙

７基の地下式壙は調査区全体に分布するが、特に南調査区に集中している。全てが一部調査区域外にかかっているため、入口部は第１・５号を除いて検出できなかった

平面形は楕円形、もしくは不整な楕円形である。軸方向はまちまちだが、概ね北東－南西、北西－南東方向である。規模はいずれも調査区域外にかかるため、調査範囲での規模である。長軸は1.44 ～ 3.52 m、深さは 0.20 ～ 1.24 mである。

覆土はローム土を含む暗褐色土、黒褐色土で、いずれも天井を落とした後に埋め戻されている。第１～７号の順で、４・２・１・２・７・５・３層が天井を落とした土層であり、第１・４～７号の上層は埋め戻しと考えられる。

遺物は近世から近代のかわらけ、瀬戸美濃系陶器、肥前系磁器、在地産土器植木鉢、焙烙、瓦等が出土している。

検出位置、規模、長軸方向、重複関係については第 33 表に示した。

このうち、第１・５号地下式壙には入口部が認められるため概略を述べる。第３号地下式壙も１号と同様の構造とすれば入口部が取り付く可能性がある。

第１号地下式壙（第 46 ～ 48 図）

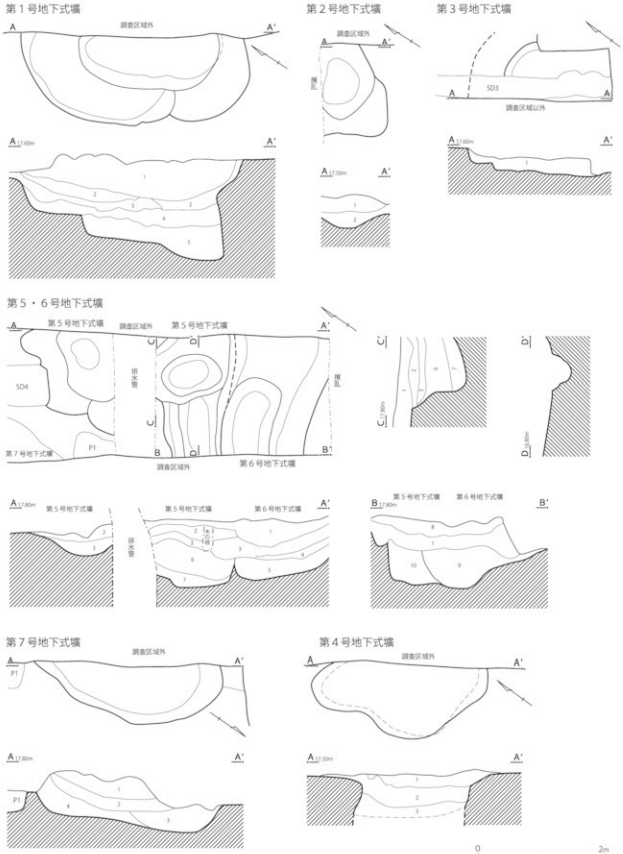
南調査区南東側のＬ・Ｍ－ 16・17 グリッドに位置する。幅 0.5 ～ 0.8 mのテラス状の段が設けられており、北側が幅広で平坦であることから入口部と考えられる。

全体の平面形は楕円形で、地下室も同様の形態である。入口部の深さは 0.60 mで、段を持って地下室に至る。地下室の深さは 1.13 mである。地下室は現状で南北 2.25 m、東西 0.90 mの長方形である。

覆土は中位にロームブロックを主体とする厚い層（４層）があり、天井を落としたものと考えられる。１～３層は天井を落とした後の埋め戻し土、５層は開口部からの流れ込みと考えられる。

第33表　地下式壙一覧表（第46・47図）　　単位：m

遺構名	時期	グリッド	重複	長軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	平面形	遺物	備考
１号地下式壙	近世～近代	L-M－16･17		N－34°－W	3.52	1.41	1.13	杓子形	楕円形	かわらけ　肥前系磁器　京都信楽系陶器　瓦　焼礫	SX1から変更
２号地下式壙	近世～近代	L－15･16		N－52°－E	1.44	1.02	0.45	鍋底形	円形+方形	植木鉢　肥前系磁器皿　瀬戸美濃香炉　かわらけ	SX2から変更
３号地下式壙	近世～近代	E･F－7	SD3(旧)	N－37°－W	2.04	0.89	0.20	杓子形	楕円形	かわらけ　瀬戸美濃系陶器　志野碗　肥前系磁器　灰釉陶器　瓦	SX3から変更
４号地下式壙	近世～近代	D･E－4･5		N－37°－W	2.80	1.18	0.69	箱形	不整楕円形		SX4から変更
５号地下式壙	近世～近代	J･K－13･14 K－15	SD6号地下式壙(新) SD4	N－34°－W	3.30	1.86	1.24	杓子形	T・L字形		SX5から変更
６号地下式壙	近世～近代	K－14･15 L－15	SD5号地下式壙(旧)	N－76°－E	1.98	1.34	0.55	箱形	不整形		SX6から変更
７号地下式壙	近世～近代	I･J－13 J－14		N－29°－W	2.92	0.92	0.59	皿形	楕円形	焙烙　肥前系磁器　瓦　植木鉢	SX7から変更


第１号地下式壙
第２号地下式壙
第３号地下式壙
第５・６号地下式壙
第７号地下式壙
第４号地下式壙
調査区域外
SD3
SD4
P1
排水管
第５号地下式壙
第６号地下式壙
第７号地下式壙
0
2m

第46図　地下式壙（1）

第１号地下式壙
1　暗褐色土　暗褐色土ロームブロック（5cm 以上）多量
　　暗褐色土ブロックの方がロームブロックより多い　埋め戻し
2　暗褐色土　ロームブロック（3cm）多量　埋め戻し
3　黒褐色土　ロームブロック（1 ～ 3cm）少量　埋め戻し
4　暗黄褐色土　こぶし大のロームブロック多量　しまりあり　天井崩落土
5　暗褐色土　ロームブロック（1 ～ 3cm）多量

第２号地下式壙
1　暗褐色土　ローム粒子多量
2　暗褐色土　ロームブロック（3cm）多量

第３号地下式壙
1　暗褐色土　ロームブロック（1 ～ 3cm）多量

第４号地下式壙
1　黒褐色土　ローム粒子少量　埋め戻し
2　暗褐色土　ロームブロック（1 ～ 3cm）多量　埋め戻し
3　暗褐色土　ローム粒子多量　埋め戻し

第５・６号地下式壙
1　暗褐色土　ロームブロック（3cm 程）多量
2　暗褐色土　ロームブロック（1 ～ 3cm）多量
3　暗褐色土　ロームブロック（1 ～ 3cm）多量
　　１・２層よりロームブロック少ない
4　黒褐色土　ロームブロック（1 ～ 3cm）含む
5　黄褐色土　ロームのみの層　しまりなし　第６号地下式壙の天井
6　暗褐色土　ロームブロック・黒色ブロック少量
7　黄褐色土　ロームブロック多量　第５号地下式壙の天井
8　暗褐黄色土　ロームブロック（1 ～ 2cm）多量
9　暗黄褐色土　ロームブロック（3cm 程）多量
10　暗黄褐色土　ロームブロック・黒色ブロック（3cm 程）多量

第７号地下式壙
1　暗褐色土　ロームブロック（2 ～ 3cm）多量
2　黒褐色土　ロームブロック（1cm 程）・ローム粒子少量
3　黄褐色土　ロームブロック（3 ～ 5cm）多量　天井崩落土
4　暗褐色土　ローム粒子多量

第47図　地下式壙（2）

遺物はかわらけ、肥前系磁器碗、京都信楽系陶器碗、桟瓦、平瓦が出土している。

第５号地下式壙（第 46 ～ 48 図）

南調査区中央の J・K － 13・14、K － 15 グリッドに位置する。第６号地下式壙が同時に埋め戻されており、同時に使用されていた可能性がある。排水管を挟んでいるため不明確だが、北側に入口が取り付くようである。全体の形態は周辺の浅い掘り込みのため判然としないものの、T もしくは L 字形になると推定される。入口部は長さが推定 1.0 ～ 1.7 m、幅は調査区内で 1.30 m、壁は緩やかに立ち上がり床面は中央が窪んでいる。

入口部の深さは 0.40 m で、段を持って地下室に至る。地下室の深さは 1.24 m である。

地下室は現状で南北 1.20 m、東西 1.90 m で、西側は一段高くなっている。覆土は最下層にロームブロックを主体とする層（７層）があり、天井を落としたものと考えられる。４・６層は本地下式壙と第６号地下式壙の天井を落とした後の堆積土、１～３層は第５・６号地下式土壙廃絶後の凹みの埋め戻し土である。

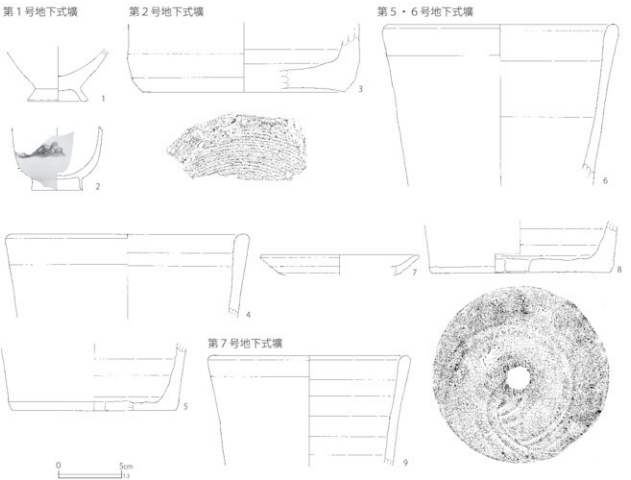
遺物はかわらけ、志野皿、肥前系磁器碗、京都信楽系陶器碗、在地産植木鉢、平瓦が出土している。

地下式壙出土遺物（第 48 図）

１は京都信楽系陶器の碗で、灰釉が施され、貫入が入る。２は肥前系磁器の草花文染付碗である。３は産地不明の焼締土器鉢で、底部は回転糸切である。４～６・８・９は 19 世紀代の植木鉢で瓦質である。９は内外面に煤が付着する。７は志野丸皿だが、長石釉に透明感が強く、やや新しい。

第34表　地下式壙出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	陶器	碗	－	4.2	4.6	I	50	良好	灰黄	SX1　灰釉　貫入　京都信楽系	11-15
2	磁器	碗	－	5.2	(4.0)	I	30	普通	灰白	SX1　肥前系　19C 前半	11-16
3	陶器	鉢	－	5.4	(16.0)	I K	15	良好	褐灰	SX2　底部回転糸切り	
4	土器	植木鉢	(18.0)	6.7	－	H	15	良好	灰黄	SX2　瓦質　19C	
5	土器	植木鉢	－	5.4	(12.9)	I	10	普通	灰	SX2　瓦質　19C	
6	土器	植木鉢	(18.0)	12.9	－	H	15	良好	灰	SX5･6　瓦質　19C	12-8
7	陶器	丸皿	(12.4)	1.6	－	I K	10	普通	灰白	SX5･6　志野　17C	
8	土器	植木鉢	－	4.1	－	I K	90	普通	灰	SX5･6　瓦質　19C	12-8
9	土器	植木鉢	(15.3)	8.8	－	H I	20	普通	暗灰	SX7　瓦質　19C	12-8



第48図　地下式壙出土遺物

（3）溝跡

溝跡は調査区全体に分布する。走行方向が調査区、即ち現在の県道と重なる御成道の方向と同一であり、それに関係するものと考えられる。

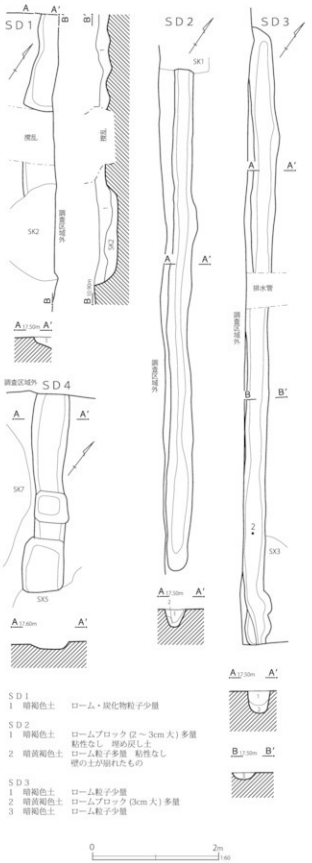
第２・３号溝跡は同一の軸線状にあり、第１・４号溝跡は同一の方向ながらもやや軸線がずれている。幅は 0.28 ～ 0.57 m、深さ 0.05 ～ 0.45 m で、いずれも直線的である。覆土はローム土を含む暗褐色土で自然堆積と考えられるが、第２・３号溝跡は埋め戻しの可能性がある。

遺物は肥前系磁器碗、京都信楽系陶器皿、香炉、焙烙、土人形が出土している。

以下、連続する一連の遺構と捉えられる第２・３号溝跡について概略を述べる。

第35表　溝跡一覧表（第49図）　　単位：m

遺構名	時期	グリッド	重複	軸方位	長さ	幅	深さ	断面形	遺物	備考
１号溝	近世	B－0		N－30°－W	1.54	0.29	0.06	逆台形	土人形	
						0.44	0.15			
２号溝	近世	A－1 B－1･2 C－2･3	SK1	N－32°－W	7.92	0.28	0.05	逆台形		
						0.42	0.45			
３号溝	近世	D－4･5 E－5～7 F－7	第3号地下式壙（新）	N－35°－W	9.56	0.29	0.09	箱形	肥前系磁器碗　肥前系陶器鉢　瀬戸美濃碗	
						0.41	0.41	皿形		
４号溝	近世	J－12～14 K－13	第5号地下式壙	N－35°－W	3.12	0.44	0.06	皿形	肥前系磁器碗　京都信楽系陶器、香炉、皿、焙烙	
						0.57	0.12			



第49図　溝跡

第２号溝跡（第 49 図）

北調査区西側のＡ－１、Ｂ－１・２、Ｃ－２・３グリッドに位置する。検出できた長さは 7.92 ｍである。幅は 0.28 ～ 0.42 ｍ、断面形は逆台形である。

覆土はロームブロックを多量に含む暗褐色土である。下層は壁が崩れたものと思われることから、本溝跡は暗渠排水等の施設である可能性がある。

遺物は出土していないが、他遺構と同様の覆土であり、同時期に帰属すると考えられる。

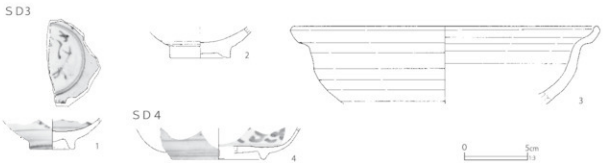
第３号溝跡（第 49 図）

北調査区西側のＤ－４・５、Ｅ－５～７、Ｆ－７グリッドに位置する。検出長 9.56 ｍ、幅 0.29 ～ 0.41 ｍ、深さ 0.09 ～ 0.41 ｍである。底面は南側へ向かって傾斜し、断面形は逆台形である。覆土はローム土を含む暗褐色土で、２層はロームブロックを多量に含むことから埋め戻しと思われる。

遺物は後述の１～３、肥前系磁器碗、瀬戸美濃陶器鉄釉丸碗、肥前系陶器折縁鉢の３点のみが出土している。

溝跡出土遺物（第 50 図）

１は肥前系磁器碗で、所謂波佐見碗である。外面に草花文と圏線、見込みに「さけが」の銘文と圏線が描かれている。２は瀬戸美濃鉄釉丸碗である。高台は無釉である。３は肥前系陶器と考えられる折縁鉢で灰釉が施されている。４は肥前系磁器皿で外面に圏線、見込みに波文が描かれている。畳付に砂が付着する。



第50図　溝跡出土遺物

第36表　溝跡出土遺物観察表(第50図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
1	磁器	碗	－	2.5	3.6	I	40	普通	灰白	SD3　肥前　波佐見碗　染付　18C	
2	陶器	丸碗	－	2.5	4.8	K	70	良好	灰白	SD3　鉄釉　№1	
3	陶器	鉢	(24.0)	6.2	－	I	5	良好	褐灰	SD3　灰釉　肥前　18C	11-17
4	磁器	皿	－	2.6	(7.5)	I	20	普通	灰白	SD4　肥前　18C	

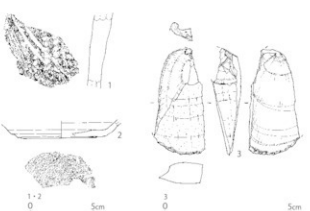
(4) ピット

南調査区J－14グリッドからピット1基を検出した。長径0.66 m、短径0.40 m、深さ0.36 mである。遺物は出土していない。

(5) グリッド出土の遺物(第51図)

表土掘削、遺構確認の際に縄文土器、石器、近世陶磁器等が出土した。

1（図版11－18）は早期後葉の縄文土器で、胎土に大量の繊維を含んでいる。粗い縄文RLを施した後に半裁竹管の平行沈線文を描く。詳しい構図は不明である。内外面とも条痕は認められない。2はロクロ成形のかわらけである。3は平坦な風化面を打面として剥離された剥片で、末端が加工され、刃部として使用されている。



第51図　グリッド出土遺物

第37表　グリッド出土遺物観察表(第51図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	残存	焼成	色調	備考	図版
2	かわらけ	皿	－	1.4	(7.0)	H I	20	良好	橙	表採　底部回転糸切り	
3	石製品	剥片	長さ4.2cm　幅2.1cm　厚さ1.1cm　重さ8.4 g　チャート							SX1	12-18

Ⅴ　調査のまとめ

宝蔵寺遺跡では縄文時代の土壙１基、中世の井戸跡１基の他、近世の土壙 46 基、地下式壙１基、溝跡５条、ピット 24 基が検出された。宝蔵寺遺跡の東側に隣接する新井宿上一斗蒔遺跡では、近世の土壙９基、地下式壙１基、溝跡７条、性格不明遺構１基、ピット 25 基が検出された。宝蔵寺、新井宿上一斗蒔両遺跡の北 1.3 ㎞に位置する東町浦遺跡では、近世の土壙５基、地下式壙７基、溝跡４条、ピット１基が検出された。今回の発掘調査は県道の歩道整備に伴うもので、幅約３ｍと狭長な範囲が対象であった。付近には寺社等もあり、関連する遺構も期待されたが、検出された遺構の多くは調査区外にかかり、遺跡の全体像を解明するまでには至らなかった。

遺物は縄文土器、中世の古瀬戸花瓶、常滑片口鉢、近世のかわらけ、瀬戸美濃系陶器、肥前系磁器、瓦、泥面子、七輪、焙烙、銭貨などが出土した。遺物の多くは小破片で、恐らくは廃棄されたものと考えられるが、近世の遺物については当時の江戸近郊の暮らしを知る貴重な成果となった。

三遺跡は歴史的環境の中でも触れたとおり、日光御成道（以下、御成道）に面している。今回の発掘調査ではいずれの遺跡でも近世の遺構・遺物が主体を占め、御成道の建設・整備とともに集落の形成も進んだものと推定され、これらの遺跡もその中で構築されたものと推定される。この付近の御成道は、元は鎌倉街道中ツ道の上に造られたと考えられており、僅かではあるが中世の遺構や遺物が発見されたことは、その傍証と言えるだろう。

一方、一般的に江戸時代の街道は、比較的地盤の良い台地の高所を選び建設・整備をしている場合が多い。御成道も例外ではなく、東京都北区の岩淵宿で荒川を越えた後は、大宮台地の鳩ヶ谷支台、岩槻支台などを通過し、幸手宿付近で日光道中と合流する。いずれも台地の高所に街道を通しており、戦時や水害等にも交通網が機能するように設計されたものと推測される。また、荒川を越えた御成道には鳩ヶ谷宿、大門宿、岩槻宿を設けて本陣や脇本陣、寺社等が置かれた。付近では市なども定期的に開かれ、明治末年頃まで賑わいをみせていたという。

また、遺跡名の新井宿については、関東郡代伊奈忠治と旗本荒川又六郎の知行であったことや遺跡の北東側に位置する赤山陣屋跡遺跡が付近にあったことに関連すると考えられ、既に江戸時代初期には新井宿村と呼称されていた。「宿」名については、陣屋などに関連した小規模な町屋などが周辺に形成されていたことが推測でき、それが村名に由来するものではないかと考えられる。

引用・参考文献

金箱文夫・吉田健司・小川順一郎 1989『赤山　本文編』川口市遺跡調査会報告第 12 集
金箱文夫・吉田健司・春日肇 2000『赤山曲輪遺跡』川口市遺跡調査会報告第 20 集
金箱文夫・吉田健司・春日肇 2001『東町裏遺跡』川口市遺跡調査会報告第 21 集
金箱文夫・春日肇・田口哲也・石塚宏明・山本ジェームス　2005『赤山陣屋跡』川口市遺跡調査会報告第 30 集
川口市　1988『川口市史　通史編』
山本　禎　1985『猿貝北・道上・新町口』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 52 集
山本　禎　1986『猿貝北・新町口』埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第 61 集
吉田健司　1991『源長寺前』川口市遺跡調査会報告第 15 集
吉田健司　1997『新井宿下一斗蒔遺跡』川口市遺跡調査会報告第 16 集

写真図版

1　宝１次全景（北から）

2　宝１次第１～４号土壙（西から）

3　宝１次第５号土壙（西から）

4　宝１次第６・７号土壙（西から）

5　宝２次Ｃ区（南から）

6　宝２次Ｂ区（北から）

図版 2

1　宝２次Ａ区（南から）

4　宝２次第３号土壙（北から）

5　宝２次第４号土壙（南から）

2　宝２次第１号土壙（南から）

6　宝２次第７号土壙（西から）

3　宝２次第２号土壙（北から）

7　宝２次第８～10号土壙（東から）

1　宝２次第 12 号土壙（西から）

2　宝２次第 13 号土壙（西から）

3　宝２次第 14 号土壙（南西から）

4　宝２次第 15 号土壙（東から）

5　宝２次第 16・17 号土壙（北から）

6　宝２次第 18・19 号土壙（東から）

7　宝２次第 20 号土壙（西から）

8　宝２次第 21 号土壙（西から）

図版 4

1　宝 2 次第 23 号土壙（東から）

2　宝 2 次第 24 号土壙（東から）

3　宝 2 次第 25 号土壙（西から）

4　宝 2 次第 27 号土壙（西から）

5　宝 2 次第 28 号土壙（西から）

6　宝 2 次第 29 号土壙（西から）

7　宝 2 次第 30 号土壙（西から）

8　宝 2 次第 31 号土壙（東から）

1　宝２次第 32 号土壙（南から）

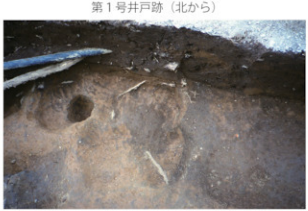
2　宝２次第 33 号土壙（西から）

3　宝２次第 13 号土壙、第１号地下式壙（南から）

4　宝２次第１号地下式壙（西から）

5　宝３次全景（北から）

6　宝３次第１号土壙、
第１号井戸跡（北から）



7　宝３次第３・４号土壙（西から）

図版 6

1　宝３次第５号土壙、第３号溝跡（西から）

2　宝３次ピット５～９（南から）

3　宝３次第７号土壙（北西から）

4　宝３次第２号土壙（西から）

5　宝３次第１号溝跡（北から）

6　宝３次第２号溝跡（東から）

7　新１次Ｂ区（南から）

1　新１次Ａ区（南から）

2　新１次Ｃ区（南から）

3　新１次第１号地下式壙（西から）

4　新２次Ａ区（南から）

5　新２次Ｂ区北側（南から）

6　新２次Ｂ区南側・Ｃ区（南から）

図版 8

1　新２次第１号土壙（南から）

2　新２次第２号土壙、
ピット４・５（東から）

3　新２次第３・５号土壙（東から）

4　新２次第４・６・８号土壙（東から）

5　新２次第７号土壙（北から）

6　新２次第１・３・４号溝跡（南から）

7　新２次第２号溝跡（北から）

8　新２次第５号溝跡（南から）

1　新２次第６号溝跡（南から）

2　新２次第６号溝跡硬化面（南から）

3　新２次第１号不明遺構（北から）

4　東２次北調査区南側（北西から）

5　東２次北調査区北側（北西から）

6　東２次南調査区南側（南東から）

7　東２次第１号土壙（北東から）

8　東２次第２号土壙（南西から）

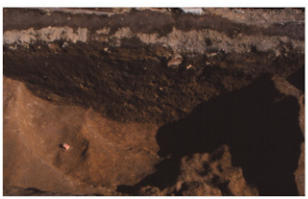
図版 10

1　東２次第３・４号土壙（南西から）

5　東２次第３号地下式壙（北東から）

2　東２次第５号土壙、第３号溝跡（南東から）

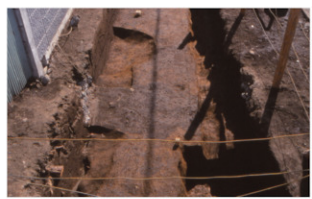
6　東２次第４号地下式壙（南西から）



3　東２次第１号地下式壙（南西から）

7　東２次第５・６号地下式壙（南西から）

4　東２次第２号地下式壙（南西から）



8　東２次第１・２号溝跡（北西から）

1　宝1次第5号土壙（第8図4）

2　宝1次第5号土壙（第8図6）

3　宝2次第1号溝跡（第18図1）

4　宝2次第1号溝跡（第18図2）

5　宝2次グリッド（第19図3）

6　宝2次グリッド（第19図2）

7　宝3次グリッド（第26図1）

8　宝3次グリッド（第26図2）

9　宝3次グリッド（第26図4）

10　新1次第1号溝跡（第33図1）

11　新1次第1号溝跡（第33図4）

12　新1次第1号溝跡（第33図6）

13　新1次第1号溝跡（第33図9）

14　東2次第1号土壙（第45図1）

15　東2次第1号地下式壙
（第48図1）

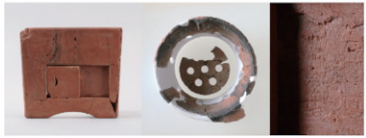
16　東2次第2号地下式壙
（第48図2）

17　東2次第1号
溝跡（第50図3）

18　東2次グリッド
（第51図1）

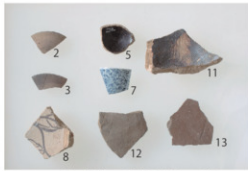
図版 12

1　宝 3 次グリッド（第 26 図 5）



2　新 2 次第 1 号不明遺構（第 40 図 2）

3　宝 1 次第 5 号土壙（第 8 図 9）

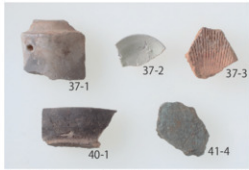


6　新 1 次第 1 号溝跡（第 33 図）

9　宝 1 次第 6 号土壙（第 8 図 11）

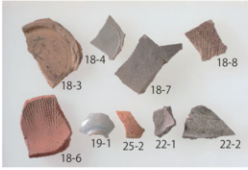
10　宝 2 次第 21 号土壙（第 13 図 7）

4　宝 1 次第 5 号土壙（第 8 図）、宝 2 次土壙（第 13 図）・第 1 号地下式壙（第 16 図）



7　新 2 次溝跡（第 37 図）・第 1 号不明遺構（第 40 図）・グリッド（第 41 図）

11　宝 2 次第 1 号土壙（第 27 図 3）



5　宝 2 次溝跡（第 18 図）・グリッド（第 19 図）、宝 3 次井戸跡（第 22 図）・溝跡（第 25 図）

8　東 2 次地下式壙（第 48 図）

12　宝 3 次第 1 号溝跡（第 29 図 19）

13　新 2 次第 1 号不明遺構（第 43 図 3）

14　宝 2 次第 29 号土壙（第 27 図 4）

15　宝 2 次第 1 号地下式壙（第 27 図 5）

16　宝 2 次第 1 号地下式壙（第 27 図 6）

17　新 1・2 次鉄製品（第 42 図）

18　東 2 次グリッド（第 51 図 3）

報告書抄録

ふりがな	ほうぞうじ／あらいじゅくかみいっとまき／ひがしまちうら
書名	宝蔵寺／新井宿上一斗蒔／東町裏
副書名	県道さいたま鳩ヶ谷線建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書
シリーズ番号	第412集
編著者名	昼間孝志、福持和夫、赤熊浩一
編集機関	公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
所在地	〒369-0108　埼玉県熊谷市船木台４丁目４番地１　　TEL　0493-39-3955
発行年月日	西暦2014（平成26）年３月25日

所収遺跡（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積（㎡）	調査原因
宝蔵寺遺跡（ほうぞうじいせき）（１～３次）	川口市西新井宿（かわぐちしにしあらいじゅく）339番地他（ばんちほか）	11203	02-068	35°50′39″	139°44′09″	20010409～20010831 20020501～20020808 20040426～20040709	928	歩道整備
新井宿上一斗蒔遺跡（あらいじゅくかみいっとまきいせき）（１～２次）	川口市新井宿（かわぐちしあらいじゅく）111-5他（ばんちほか）	11203	02-065	35°55′41″	139°34′40″	20010409～20010831 20040426～20040709	640	
東町裏遺跡（ひがしまちうらいせき）（２次）	川口市大字石神字東町裏（かわぐちしおおあざいしかみあざひがしまちうら）1205他（ばんちほか）	11203	02-029	35°50′54″	139°44′38″	20060116～20060307	143	

所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
宝蔵寺遺跡	集落跡	縄文	土壙　１基	縄文土器	中世から近世の遺構、遺物が出土。
		中世	井戸跡　１基	陶器・土器	
		近世	土壙　46基 地下式壙　１基 溝跡　５条 ピット　24基	磁器・陶器・土器・石製品・鉄製品・古銭	
新井宿上一斗蒔遺跡	集落跡	近世	土壙　９基 地下式壙　１基 溝跡　７条 性格不明遺構　１基 ピット　25基	磁器・陶器・土器・石製品・鉄製品・古銭	中世末から近世の遺物が出土。中世末の天目碗、志野織部などの茶道具が出土。
東町裏遺跡	集落跡	近世	土壙　５基 地下式壙　７基 溝跡　４条 ピット　１基	かわらけ・磁器・陶器・土器・石製品	近世の植木鉢が多く出土。

要約　宝蔵寺、新井宿上一斗蒔、東町裏の3遺跡は、大宮台地鳩ヶ谷支台のほぼ中央に立地する。調査では、日光街道御成道を含むこれらの遺跡の、そのもととなった鎌倉街道中ツ道の頃から幕末にかけての様相が明らかになった。

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書　第412集

宝蔵寺／新井宿上一斗蒔／東町裏

県道さいたま鳩ヶ谷線建設事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

平成２６年３月１８日　印刷
平成２６年３月２５日　発行

発行／公益財団法人　埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108　熊谷市船木台４丁目４番地１
0493(39)3955
http://www.saimaibun.or.jp

印刷／株式会社　文化新聞社